

○會ノ部

○造幣局印刷局官制

○明治十九年四月十七日勅令第拾七號

朕造幣局印刷局ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

造幣局官制

第一條 造幣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣鑄造ノ事ヲ掌ル

第二條 造幣局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

事務次長

技術官

屬

ソ



第三條 事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 事務次長ハ一人奏任トシ現任事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク

第五條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ従事ス

第七條 造幣局ニ總務部會計部第一部第二部第三部第四部及第五部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

○印刷局官制

第一條 印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ諸印刷抄紙ノ事ヲ掌ル

第二條 印刷局ニ職員ヲ置クト左ノ如シ

事務長

事務次長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

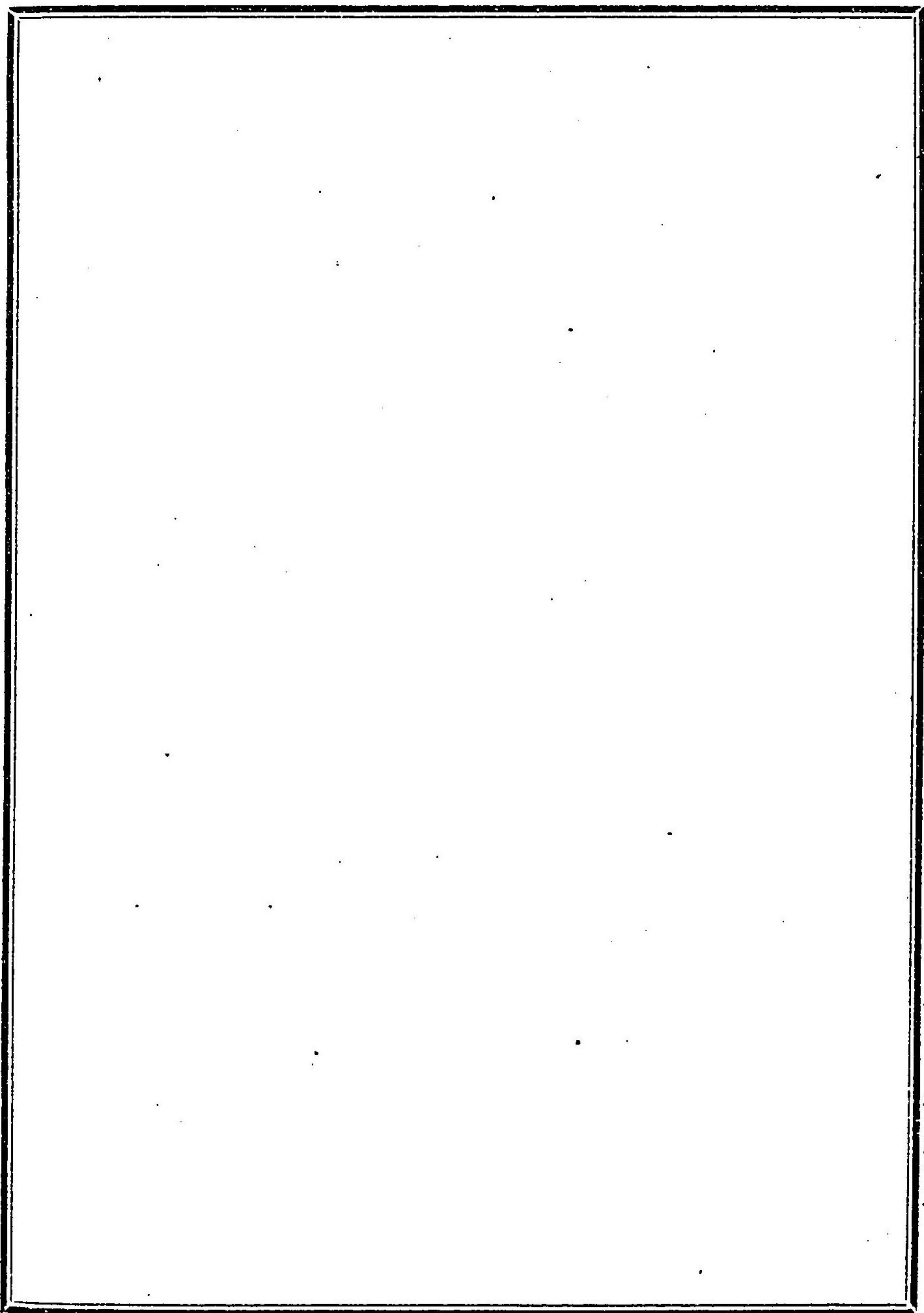
第四條 事務次長ハ一人奏任トシ現任事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク

第五條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

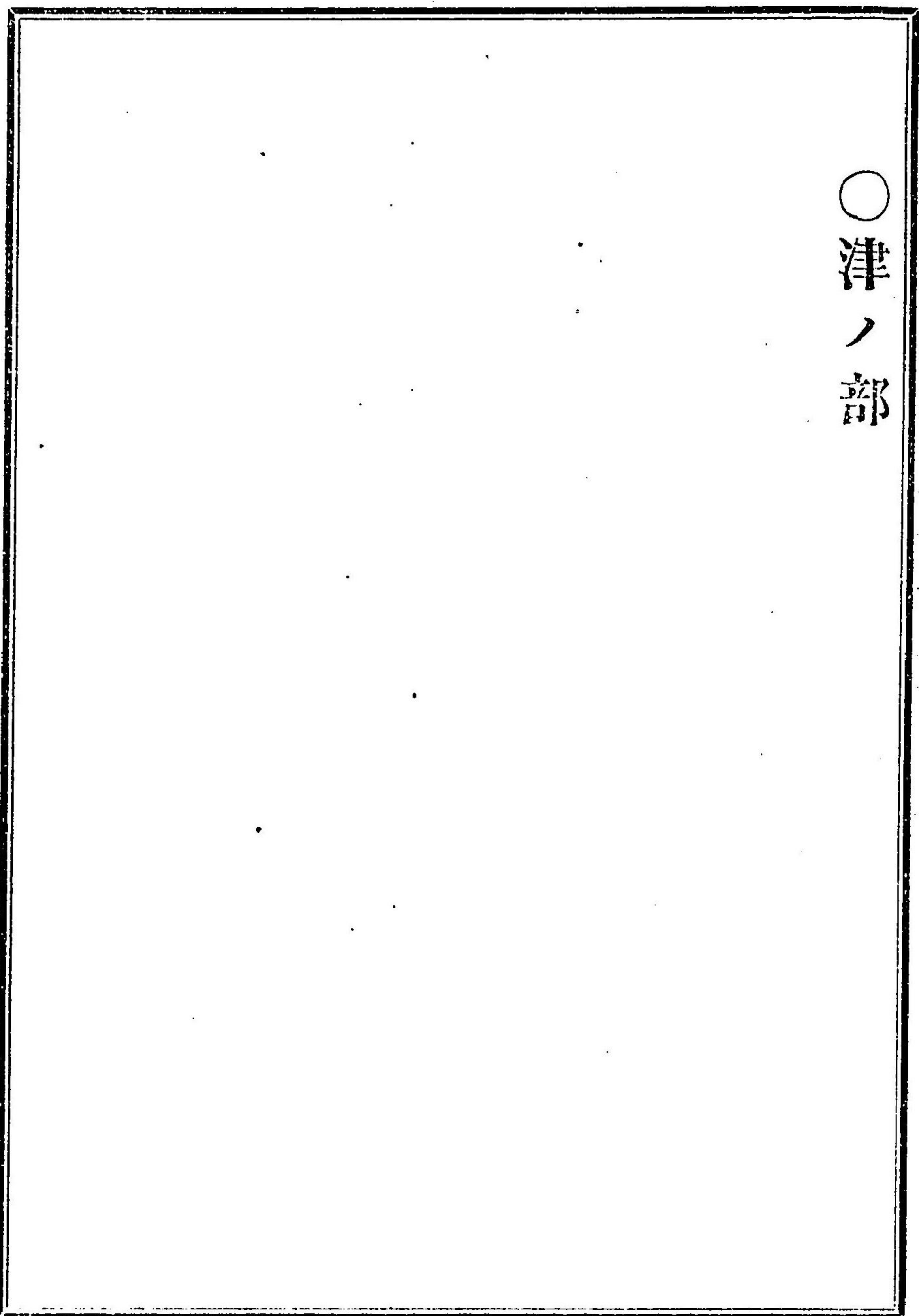
第六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ従事ス

第七條 印刷局ニ總務部會計部印刷部及抄紙部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム



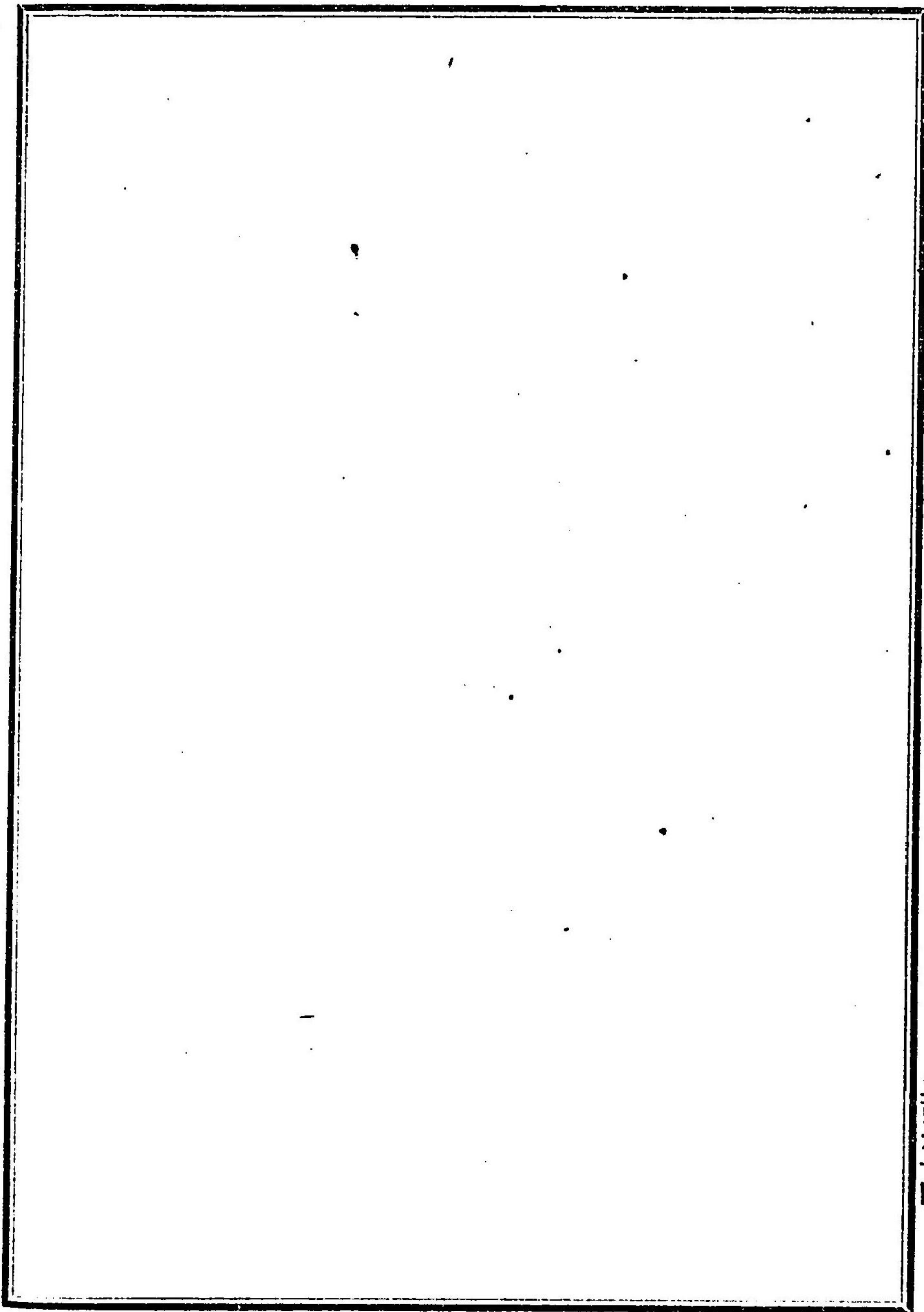


○津ノ部

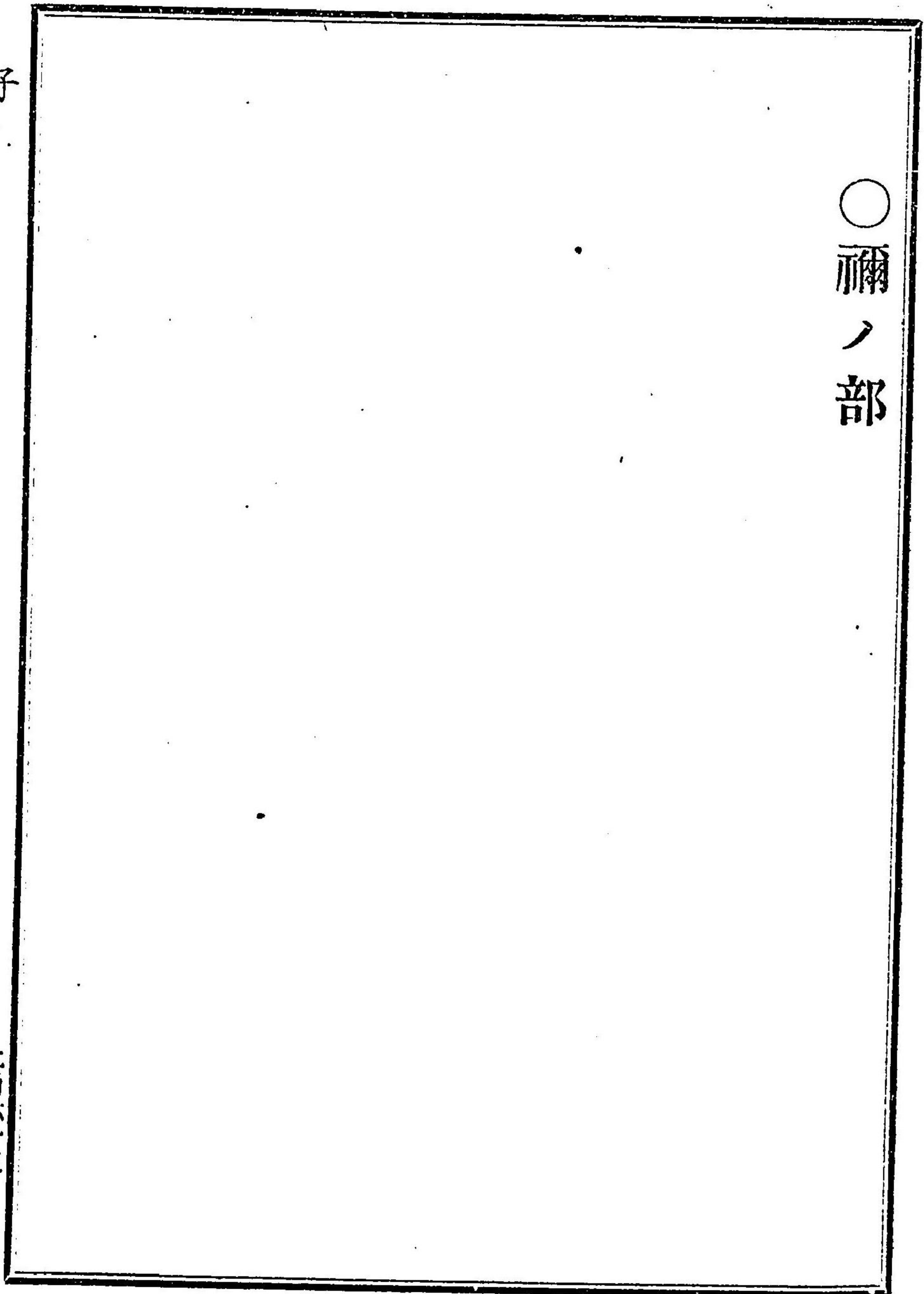


ツ





○禰ノ部





○奈ノ部

○内閣賞勳局職員及官等年俸

○明治十九年三月三十日勅令第拾號

朕内閣賞勳局職員及官等年俸ヲ裁可ス

御名 御 璽

内閣賞勳局職員及官等年俸

第一條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人

助任 一等

副總裁 一人

助任 二等

書記官 二人

ナ



奏任自一等至四等

屬

判任

第二條 總裁副總裁及書記官ノ年俸ハ左ノ如ク定ム

總裁

四千圓

副總裁

三千圓

書記官

奏任一等	上貳千四百圓
	下貳千貳百圓
奏任二等	上貳千圓
	下千八百圓
奏任三等	上千六百圓
	下千四百圓
奏任四等	上千貳百圓
	下千圓



○良ノ部

○臘虎并臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

○明治十九年十二月十七日勅令第八拾號

朕臘虎并臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

臘虎并臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

第一條 明治十七年第十號布告但書ニ據リ農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ北海

道廳ノ定メタル獵獲期限獵場區域内ニ於テ臘虎并ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スヘシ

但獵獲ニ從事スルトキハ常ニ其特許狀ヲ携帯シ海陸何レノ場合ヲ問ハス獵獲

監視官吏又ハ警察官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二條 臘虎并ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スル者北海道ニ至リタルトキハ獵船ノ各噸

數、乗組人名ヲ北海道廳指定ノ出張所ニ届出該道廳ニ於テ獵獲船ノ爲メ特ニ定メ

ラ



タル徽章ヲ常ニ船橋又ハ其他船部ノ見易キ位置ニ掲クヘシ

第三條 臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ賣却セントスル者ハ之ヲ第二條ニ記載セル出張所ニ差出シ當該官吏ノ檢印(烙印ヲ用ユルモ妨ナシ)ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ之ヲ賣却スルコトヲ得ス

第四條 前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ若クハ船舶ニ積載シテ帝國諸港内ニ滯泊シ又ハ市場ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押ヘ直ニ告發スヘシ但露西亞國及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ニ於テハ船主又ハ船長タル者其國相當官吏ヨリ付與セシ證書若クハ本邦在留露國及合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國内ニ輸入スルコトヲ得



# ○武ノ部

○無任所外交官年俸

○明治十九年四月二十七日勅令第三拾三號

朕茲ニ無任所外交官ノ年俸ヲ裁可ス

御名 御 璽

一無任所外交官ノ年俸ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使	勅任一等	自貳千三百圓 至三千圓
辦理公使	勅任二等	自千七百圓 至貳千三百圓
代理公使	奏任一等	自千四百圓 至千七百圓
公使館參事官	奏任一等	自千四百圓 至千七百圓
公使館書記官	奏任二等	自千貳百圓 至千四百圓
公使館書記官	奏任三等	自千貳百圓 至千四百圓

ム



公使館書記官

奏任四等

自九百圓

交際官試補

奏任五等

自五百圓

交際官試補

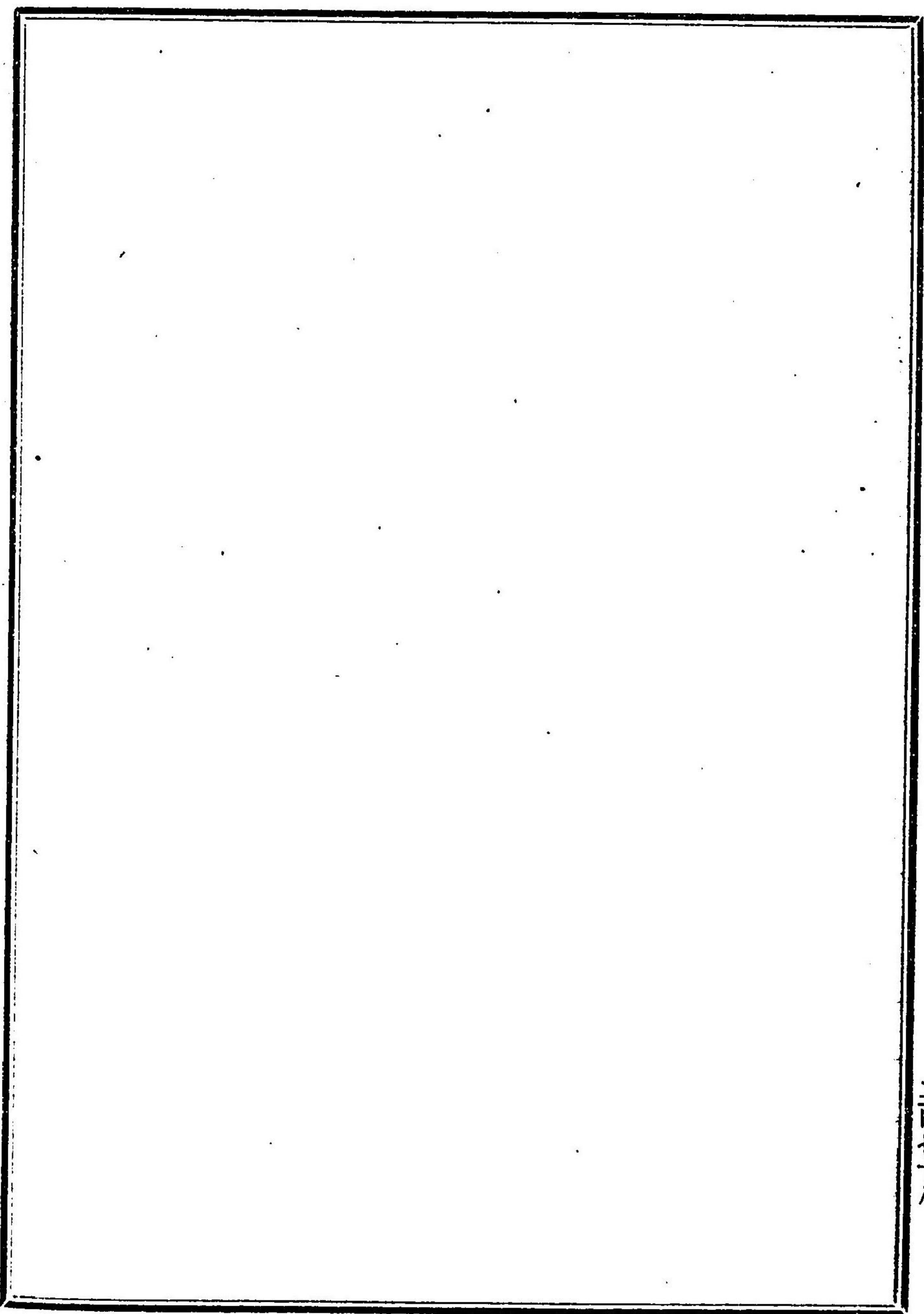
奏任六等

自三百圓

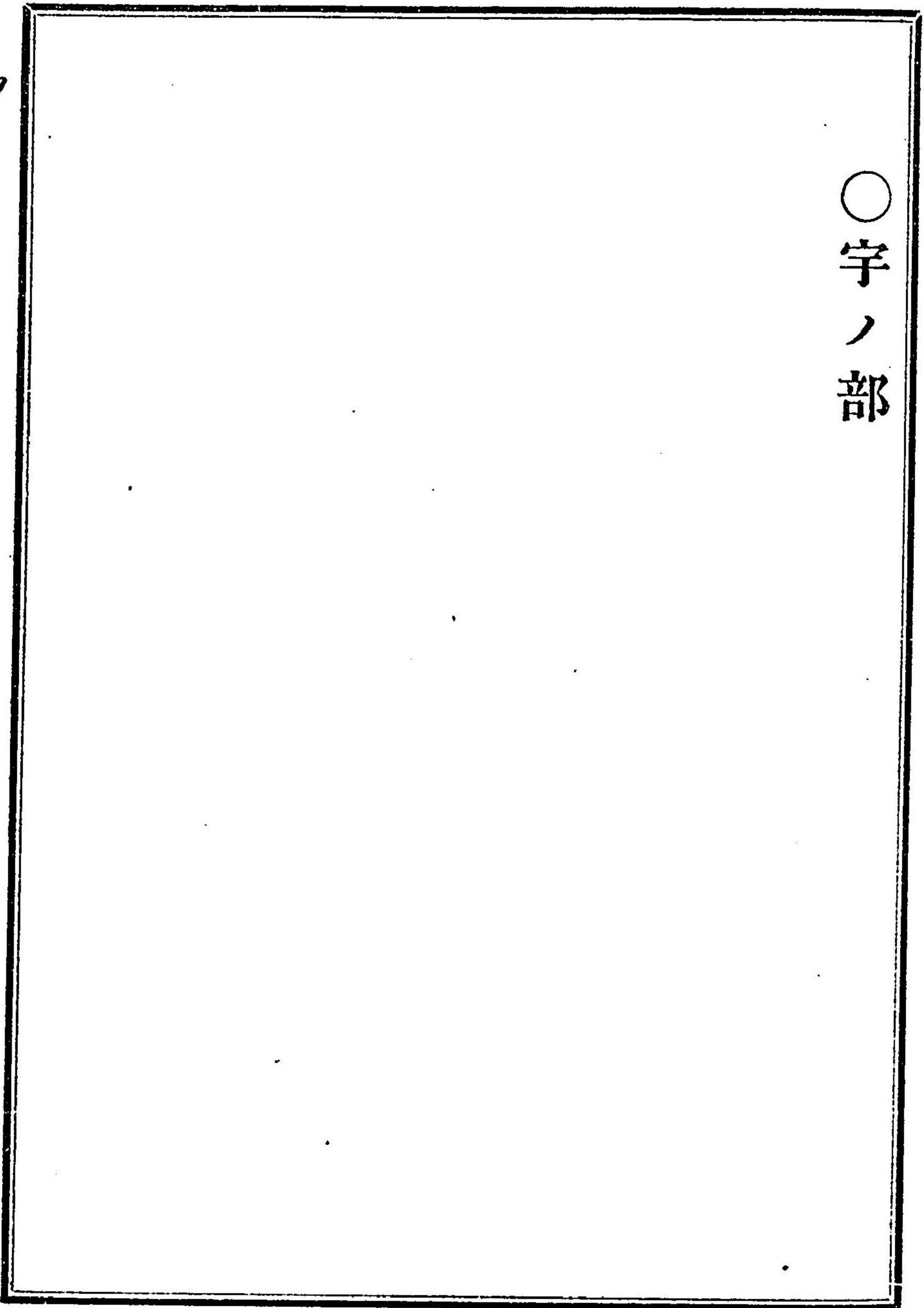
一 無任所外交官外務省參事官ニ兼任セラレタルトキハ勅令第六號高等官官等俸給

令ニ依リ其年俸ヲ支給ス





○字ノ部





○乃ノ部



○久ノ部

○火藥取締規則

○明治十九年十月二十二日勅令第六拾七號

朕火藥取締規則中改正削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十七年<sup>十二月</sup>第三拾一號布告火藥取締規則中左ノ通改正削除ス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟花製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一

ク



回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用

火藥 三百目 雷管 五百箇

船舶設備銃砲用

大砲一門ニ付 火藥五十發分 導火管類七十箇  
小銃一挺ニ付 火藥百發分 雷管百五十箇

烟火製造用

火藥 五貫目

坑業土工其他職業用

火藥 二百貫目  
劇發火藥 三十貫目

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量并使用ノ場

所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ

直ニ陸軍海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得

第二十條 坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ

設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄

廳 東京府ハニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セン

トスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ

第二十八條中又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シノ十五字ヲ削除ス

○會計検査院官制

○明治十九年四月十七日勅令第貳拾號

朕會計検査院ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

會計検査院官制

第一條 會計検査院ハ政府ノ會計ヲ検査スル爲ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

副院長

書記官

検査官

検査官補

ク



第二條 院長ハ一人勅任一等トス内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ國庫及各廳金錢物品ノ會計官有財産ノ増減作業資本別種金保管金抵當物品ノ會計ヲ審査判定シ歲出入ノ決算報告書ニ對シ其當否ヲ證明スルコトヲ掌ル

審査判定及證明ノ手續ニ關スル検査ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條 院長ハ院中ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第四條 院長ハ各官廳中一部ニ屬スル會計ノ検査ヲ其廳ニ委任シテ之ヲ報告セシムルコトヲ得

第五條 院長ハ検査上必要ト認ムル簿冊書類等ヲ點檢シ及主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 院長ハ金庫倉庫及出納ノ實況其他事業ノ審査ヲ要スルトキハ豫メ其旨ヲ通知シ検査官ヲ其廳ニ派遣シ主務官吏ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第七條 院長ハ會計正當ナリト判定シタルトキハ主任官吏ニ對シ認可狀ヲ下付ス其正當ナラサルモノハ該所屬長官ニ通知シ之カ處分ヲ爲サシメ又ハ時宜ニ依リ直ニ内閣總理大臣ニ具狀シ處分ヲ請フコトヲ得

第八條 院長ハ每會計年度ノ終リタル後五箇月以内ニ報告書ヲ調整シテ前年度ノ會計ニ就キ検査ノ功程ヲ内閣總理大臣ニ上申スヘシ及需費ノ成績ニ就キ行政上ノ意見ヲ開申スルコトヲ得

第九條 副院長ハ一人勅任二等トス院長ノ職務ヲ佐ケ又ハ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第十條 書記官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル

第十一條 検査官ハ奏任トシ十人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ會計検査ノ事務ヲ分掌ス

第十二條 検査官補ハ判任トス検査官ニ分屬シテ會計検査ノ事務ニ従事ス



第十三條 屬ハ判任トス書記官ニ屬シテ書記會計ノ事務ニ従事ス

○軍用電信ニ係ル妨害者處分方

○明治十九年四月二十二日勅令第貳拾壹號

朕軍用電信ニ係ル妨害者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十八年<sup>五</sup>月<sup>五</sup>日 第八號布告電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第七十一條ハ軍用電信ニ亦之ヲ適用ス

軍用電信事務ヲ奉スル者電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又電報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ電信條例第六十八條第二項ニ依リ處斷ス

電信條例第五十八條第六十二條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ

普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○華族世襲財產法

○明治十九年四月二十九日勅令第三拾四號

朕華族世襲財產法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

華族世襲財產法

第一條 華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得

第二條 世襲財產ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス

第三條 世襲財產ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行株券ハ第二類ニ

ク



準シ世襲財産ト爲スコトヲ得

第一類 田畑山林宅地塩田牧場池沼等

第二類 政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券

第四條 世襲財産ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額毎年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産タルヘシ但其財産中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ

第五條 世襲財産ノ所有者ハ特ニ世襲スヘキ建物庭園圖書寶器等ヲ以テ世襲財産ノ附屬物ト爲スコトヲ得

第六條 負債償却ノ義務アル財産ハ世襲財産及ヒ附屬物ト爲スコトヲ得ス

第七條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ其財産ヲ増加スルコトヲ得

第八條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ノ財産ト爲スコトヲ得但第一類ヲ第二類ト爲スコトヲ得ス

第九條 第一類ノ財産若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減シタ

ルトキハ五箇年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシ

第十條 第二類ノ財産其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ第一類又ハ第二類ノ財産ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第十一條 世襲財産ノ所有者ハ其財産ノ純收益ヲ抵當トシテ負債ヲ爲スコトヲ得但毎年其純收益ノ三分一以上ノ償却ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十二條 世襲財産ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

第十三條 世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入ト爲スコトヲ得ス

第十四條 世襲財産及ヒ附屬物ハ負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十五條 世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス

一 戸主死亡ノ後家督相續スヘキ男子ナキトキ

一 爵ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續者ナキトキ

一 第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ



第十六條 世襲財産及ヒ附属物ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十七條 世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第十八條 華族局ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

第十九條 世襲財産ヲ創設増加更換又ハ補充セントスル者ハ其願書ニ財産目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財産附属物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條 宮内大臣ハ前條ノ願書目錄ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ地方廳ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ世襲財産ト爲スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附属物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條 前條公告ヲ了リタル後二十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ認可證ヲ下付シ第一類ノ財産ハ

所轄ノ地方廳ニ命シ地券臺帳ニ記入セシメ地方廳ハ戸長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ地方廳ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ帳簿ニ記入セシムヘシ

華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若クハ株券ノ券面ニ世襲財産ト爲リタル旨ヲ記入スヘシ

第二十二條 世襲財産其効ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ  
世襲財産附属物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十三條 第二十條及ヒ第二十二條ニ關スル公告費用ハ其財産所有者ヨリ之ヲ華族局ニ納ムヘシ

第二十四條 世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戸主及ヒ滿二十年以上ノ相續者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親族會

ク



議員ニ充ルコトヲ得

第二十五條 世襲財産ニ關スル願書届書ハ親属會議各員ノ連署ヲ要ス

第二十六條 此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二十七條 此法ハ明治十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

ク



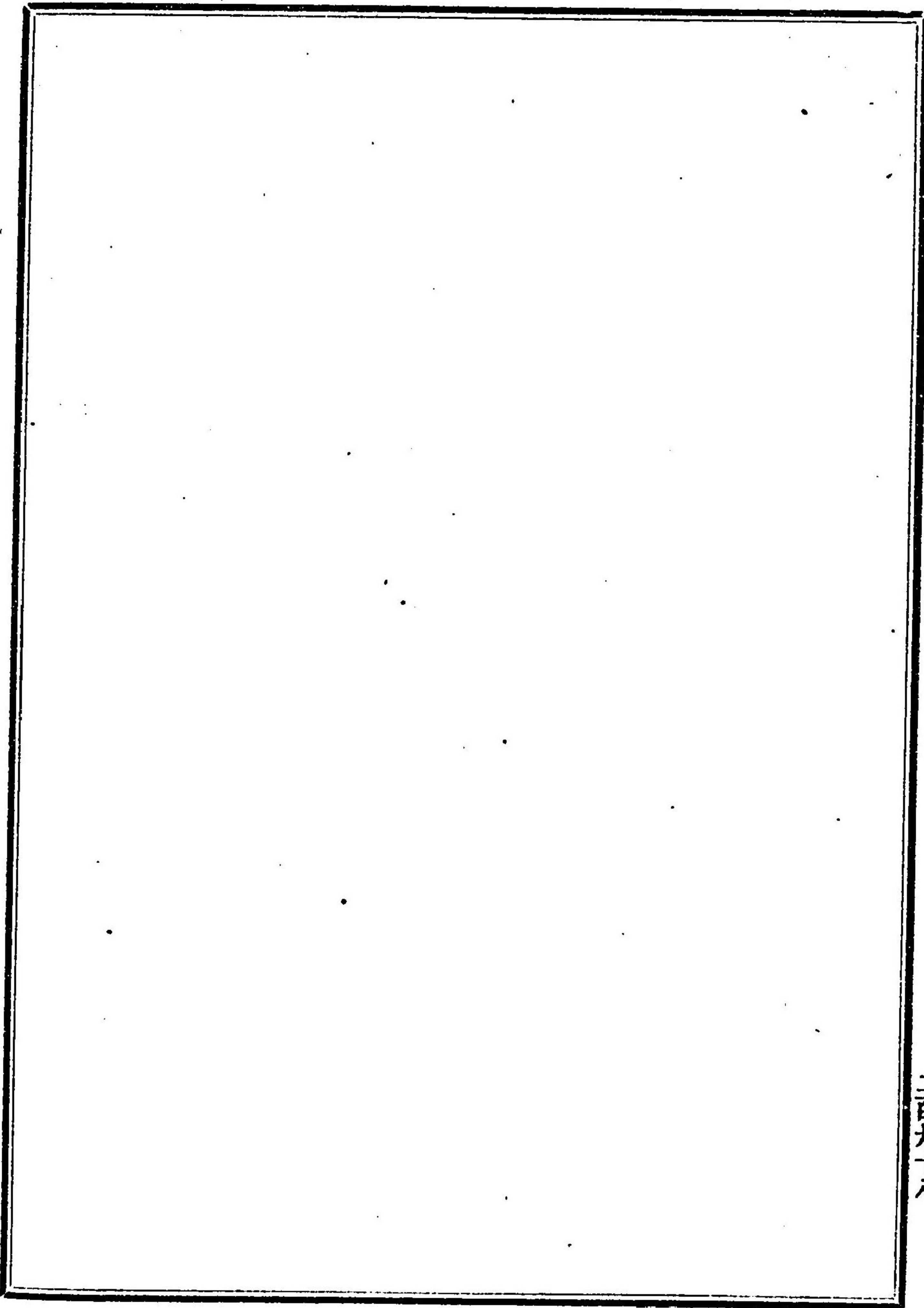
○也ノ部

ヤ

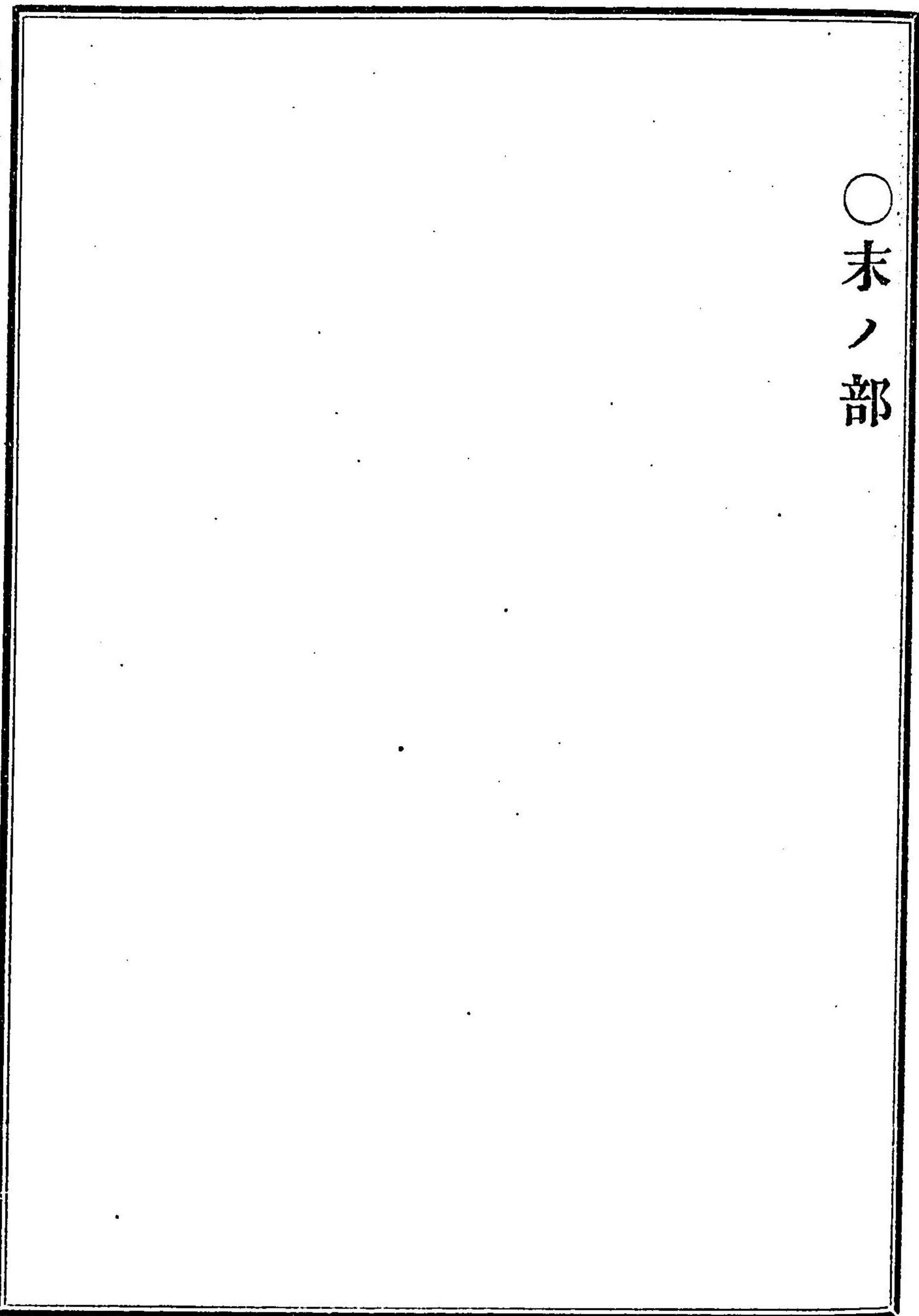
二百九十七

二百九十六





○末ノ部





○計ノ部

○元老院官制

○明治十九年三月三十日勅令第拾壹號

朕元老院官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

元老院官制

議長 一人

議場ニ臨ミ議事ヲ整頓シ本院ノ章程ヲ遵守シ並ニ條例規則ヲ執行シ諸般ノ事務ヲ總判シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

副議長 一人

議長缺員又ハ事故アリテ缺席スルトキハ之ヲ代理ス

ケ



議官

本院ノ章程ニ從ヒ諸議案ヲ議スルヲ掌ル

書記官 六人

議長ノ命ヲ受ケ各其主務ヲ幹理ス

書記生

上官ノ指揮ヲ受ケ各庶務ニ從事ス

○元老院議長以下書記官官等年俸

○明治十九年三月三十日勅令第拾貳號

朕元老院議長副議長議官書記官ノ官等年俸ノ改正ヲ裁可ス

御名 御璽

元老院議長副議長議官書記官官等年俸

議長

勅任

五千圓

副議長

勅任一等

四千圓

議官

勅任一等

三千五百圓

議官

勅任二等

三千圓

書記官

奏任一等

上貳千四百圓  
下貳千貳百圓

書記官

奏任二等

上貳千圓  
下千八百圓

書記官

ケ



奏任二等

上千六百圓  
下千四百圓

書記官

奏任四等

上千貳百圓  
下千圓

○警視廳官制

○明治十九年五月五日勅令第四拾貳號

朕警視廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

警視廳官制

第一條 警視廳ニ左ノ警察官及屬員ヲ置ク

警視總監

警視副總監

一等警視

二等警視

三等警視

四等警視

五等警視

屬

警部

警部補

第二條 警視廳ニ左ノ醫務官ヲ置ク

警察醫長

警察副醫長

警察醫

第三條 警視廳ニ左ノ消防官ヲ置ク

ケ



消防司令長

消防司令副長

消防司令

消防司令補

第四條 警視廳ニ左ノ監獄官及屬員ヲ置ク

典獄

副典獄

書記

看守長

看守副長

第五條 總監ハ一人勅任一等又ハ二等トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ

警察消防及監獄ノ事務ヲ總轄ス

第六條 總監ハ高等警察ノ事務ニ付テハ直ニ内閣總理大臣ノ指揮ヲ承ケ其他各大

臣ノ主務ニ關スル警察事務ニ付テハ直ニ各大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第七條 總監ハ府下ノ警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範

圍内ニ於テ警察令ヲ發スルコトヲ得但東京府知事所掌ノ事務ト交渉スルモノハ

府知事ト協議ヲ經連署ヲ以テ之ヲ發スヘシ

第八條 總監ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下

ハ之ヲ專行ス

第九條 總監ハ其主任ノ事務ニ付テハ府下ノ郡區長及戶長ヲ指揮ス

第十條 總監ハ内務大臣ヲ經由シテ上奏裁可ヲ經ルニアラサレハ局本署部及方面

ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外更ニ奏任官ヲ増加スルコトヲ得ス

本署ヲ除クノ外各署及局中諸課ノ廢置分合ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行ス

ルコトヲ得

第十一條 總監ハ俸給豫算定額内ニ於テ其應限リ定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコ

トヲ得

ケ



第十二條 總監ハ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 總監ハ每會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須要ニ依リ使用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 總監ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第十五條 總監ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ局署部ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 副總監ハ一人奏任一等トス總監ノ事務ヲ佐ク總監事故アルトキハ内務大臣ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第十八條 警視ハ奏任トス二等ヨリ六等ニ至ル總監ノ指揮監督ヲ承ケ局又ハ署ニ

就キ其主務ヲ掌理ス

第十九條 屬ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ヲ掌ル

第二十條 警部ハ判任トス警視ノ指揮監督ヲ承ケ所屬ノ警部補及巡查ヲ指揮シ其主任ニ屬スル警察事務ニ従事ス

警部補ハ判任トス警部ノ職掌ヲ佐ク

第二十一條 警察醫長ハ奏任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ警察ニ關スル醫務ヲ掌理ス

第二十二條 警察副醫長ハ奏任五等又ハ六等トス醫長ノ職掌ヲ佐ク醫長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第二十三條 警察醫ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル醫長ノ命ヲ承ケ診療分析解剖等ニ従事ス

第二十四條 消防司令長ハ奏任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ消防本署

ケ



ノ長トナリテ所屬員ヲ統率シ火水消防ノ事務ヲ掌理ス

第二十五條 消防司令副長ハ奏任五等又ハ六等トス司令長ノ職掌ヲ佐ク司令長事  
故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス

第二十六條 消防司令ハ判任トス司令長ノ命ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス

消防司令補ハ判任トス消防司令ノ職掌ヲ佐ク

第二十七條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス總監ノ命ヲ承ケ未決已決各囚監獄ヲ管  
理シ書記看守長以下ノ諸員ヲ指揮監督ス

第二十八條 副典獄ハ判任トス三等ヨリ五等ニ至ル典獄ノ職掌ヲ佐ク典獄事故ア  
ルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス

第二十九條 書記ハ判任トス六等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ承ケ書記簿記及計算  
ニ従事ス

第二十條 看守長ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ヲ看守シ看守ヲ指揮ス

看守副長ハ判任トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

第三十一條 警部警部補消防司令消防司令補看守長及看守副長ノ官等及月俸ハ別  
表ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十三條 警視廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ書記局第一局第二局第三局會計局警察  
本署醫務部消防本署及監獄本署ヲ置ク

第三十四條 各局ニ局長局次長一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ但局長アレハ局次  
長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシ

局中課ヲ設ケ各課ニ課長一人及課僚若干員ヲ置キ屬警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ  
充ツ

第三十五條 局長又ハ局次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ局中各課ノ事務ヲ  
指揮ス

課長ハ局長又ハ局次長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス課僚ハ課長ノ指揮ヲ承ケ主務ニ  
従事ス

ケ



局長及局次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ局長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ局次長其職務ヲ代理ス

第二十六條 各本署ニ本署長本署次長一人ヲ置キ警視消防官又ハ典獄官ヲ以テ之ニ充ツ本署長アレハ本署次長ヲ置カス本署次長アレハ本署長ヲ置カサルコトアルヘシ

本署長本署次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス本署長及本署次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ本署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ本署次長其職務ヲ代理ス

第二十七條 部ニ部長副部長一人ヲ置キ警務官ヲ以テ之ニ充ツ但部長アレハ副部長ヲ置カス副部長アレハ部長ヲ置カサルコトアルヘシ

部長及副部長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス部長及副部長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ部長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ副部長其職務ヲ代理ス

第二十八條 局署部ニ於テ特別ノ職員ヲ置クモノハ其局署部ニ就テ之ヲ定ム

第二十九條 書記局ニ職員課文書課往復課及記録課ヲ置キ本廳ノ庶務ヲ分掌セシ

ム

一、職員課ハ本廳職員ノ進退賞罰及身分ニ關スル事ヲ掌ル

二、文書課ハ諸文案ヲ起草シ及之ヲ審査スルコトヲ掌ル

三、往復課ハ公文書類及電信ノ接受及發送ノ事ヲ掌ル

四、記録課ハ公文書類ノ編纂保存統計製圖及書籍管守ノ事ヲ掌ル

第四十條 書記局ニ參事官五人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充テ總監ノ諮問ニ應シ意見ヲ述ヘ及審議立案ノ事ヲ掌ラシム

第四十一條 第一局ニ第一課第二課第三課第四課及第五課ヲ置キ行政警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、第一課ハ諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項ヲ掌ル

二、第二課ハ演藝遊觀場遊戯場遊憩場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項ヲ掌ル

ケ



- 三、第二課ハ船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事ヲ掌ル
- 四、第四課ハ人命瘻傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船遺流失物理藏物ニ關スル事ヲ掌ル
- 五、第五課ハ傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事ヲ掌ル
- 第四十二條 第二局ニ第一課第二課ヲ置キ司法警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム
- 一、第一課ハ諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スルコトヲ掌ル
- 二、第二課ハ失踪者風癪者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事ヲ掌ル
- 第四十三條 第三局ハ政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關シ高等警察ノ事務ヲ掌ル
- 第四十四條 會計局ニ出納課檢查課及用度課ヲ置キ本廳及所轄廳ノ會計營繕用度

ニ關スル事務ヲ分掌セシム

- 一、出納課ハ本廳及所轄廳ノ經費豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓及計算表調整ノ事ヲ掌ル
- 二、檢查課ハ金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ檢查スル事ヲ掌ル
- 三、用度課ハ所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事ヲ掌ル
- 第四十五條 警察本署ハ各警察署ヲ統轄シ巡邏查察警衛及警備ノ事ヲ掌ル
- 警察本署ニ事務員ヲ置ク警視二人警部以下ヲ以テ之ニ充ツ
- 事務員ハ本署長ノ命ニ依リ本署ノ主務ヲ分掌ス
- 第四十六條 府下警察事務ヲ監督スル爲ニ第一方面第二方面第三方面第四方面第五方面第六方面ニ分チ須要ニ從ヒ各方面ノ區域内ニ警察署ヲ置ク
- 第四十七條 各方面ニ方面監督一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四十八條 方面監督ハ總監又ハ本署長ノ命ヲ承ケ主任方面内ヲ巡廻シ警察ノ事務ヲ監督ス又臨時命ヲ承テ署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

ケ



第四十九條 警察署ハ其所轄ノ區域内ニ於テ警察事務ヲ掌理シ各署ニ署長一人ヲ置キ事務ノ繁簡ニ從ヒ三等以下ノ警視若クハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第五十條 署長ハ其主任ノ警察事務ニ付テハ總監又ハ本署長ノ指揮監督ヲ承ク署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ上席警部其職務ヲ代理ス

第五十一條 醫務部ハ警察ニ關スル診療解剖分析其他醫務ニ關スル事ヲ掌ル

第五十二條 消防本署ハ水火消防ニ關スル事務ヲ掌ル

各區ニ消防分署ヲ配置シ本署ノ管轄ニ屬セシム

分署ニ長一人ヲ置ク消防司令ヲ以テ之ニ充ツ

第五十三條 監獄本署ハ監獄ニ關スル事務ヲ掌リ本署ノ下分署ヲ置キ其管轄ニ屬

セシム

分署ニ長一人ヲ置キ典獄又ハ副典獄ヲ以テ之ニ充ツ

別表

判

任

官

官	等一	等二	等三	等四	等五	等六	等七	等八	等九	等十
警部	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾壹圓			
消防司令	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾壹圓			
看守長					貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾壹圓			
警部補						貳拾四圓	貳拾壹圓			
消防司令補								拾八圓	拾五圓	拾貳圓
看守副長								拾八圓	拾五圓	拾貳圓

○警備隊條例

○明治十九年十二月一日勅令第七拾五號

朕警備隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

警備隊條例

ケ



第一章 總則

第一條 小笠原島佐渡隱岐大島沖繩對馬ノ諸分營ニ漸次警備隊ヲ置ク

第二條 警備隊ハ營所司令官ノ管轄ニ屬スルモ指揮供給等ノ事ハ鎮臺司令官直ニ之ヲ管理ス

第三條 警備隊ノ兵卒ハ該島嶼ヨリ徵兵適齡ノ者ヲ徵集シ毎年兩度ニ其半數宛ヲ入營セシメ在營一箇年ニシテ歸休ヲ命ス

其技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ一箇年未滿ト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第四條 警備隊ノ上等兵ハ兵卒ト同シク在營一箇年ノ後歸休ヲ命スト雖モ志願ノ者ハ尙ホ一箇年間在營スルコトヲ得

第五條 警備隊ノ下士ハ該隊上等兵ノ中ヨリ其任ニ堪ユ可キ者ヲ拔擢シテ之ニ任ス但時宜ニ依リ他ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二章 司令官ノ本務權限

第六條 警備隊司令官ハ兵隊ノ指揮節度軍紀風紀教育訓練等ノ事ヲ掌リ管地ノ警

備保護ニ任ス

第七條 警備隊司令官ハ該全島ノ徵兵調査及豫備役後備軍驅員兵員ニ係ル一切ノ事務ヲ管理ス

第八條 警備隊司令官ハ管内騷擾ノ警アル時ハ先ツ情狀ヲ鎮臺司令官ニ申報シテ其區處ヲ承ク可シ但事火急ニシテ兵力ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ要求スル時ハ之ニ應シ狀ヲ具シテ鎮臺司令官ニ急報ス可シ其事外國ニ關涉スルモノハ出兵スルモ守勢ノ戰備ヲ取ル可シ

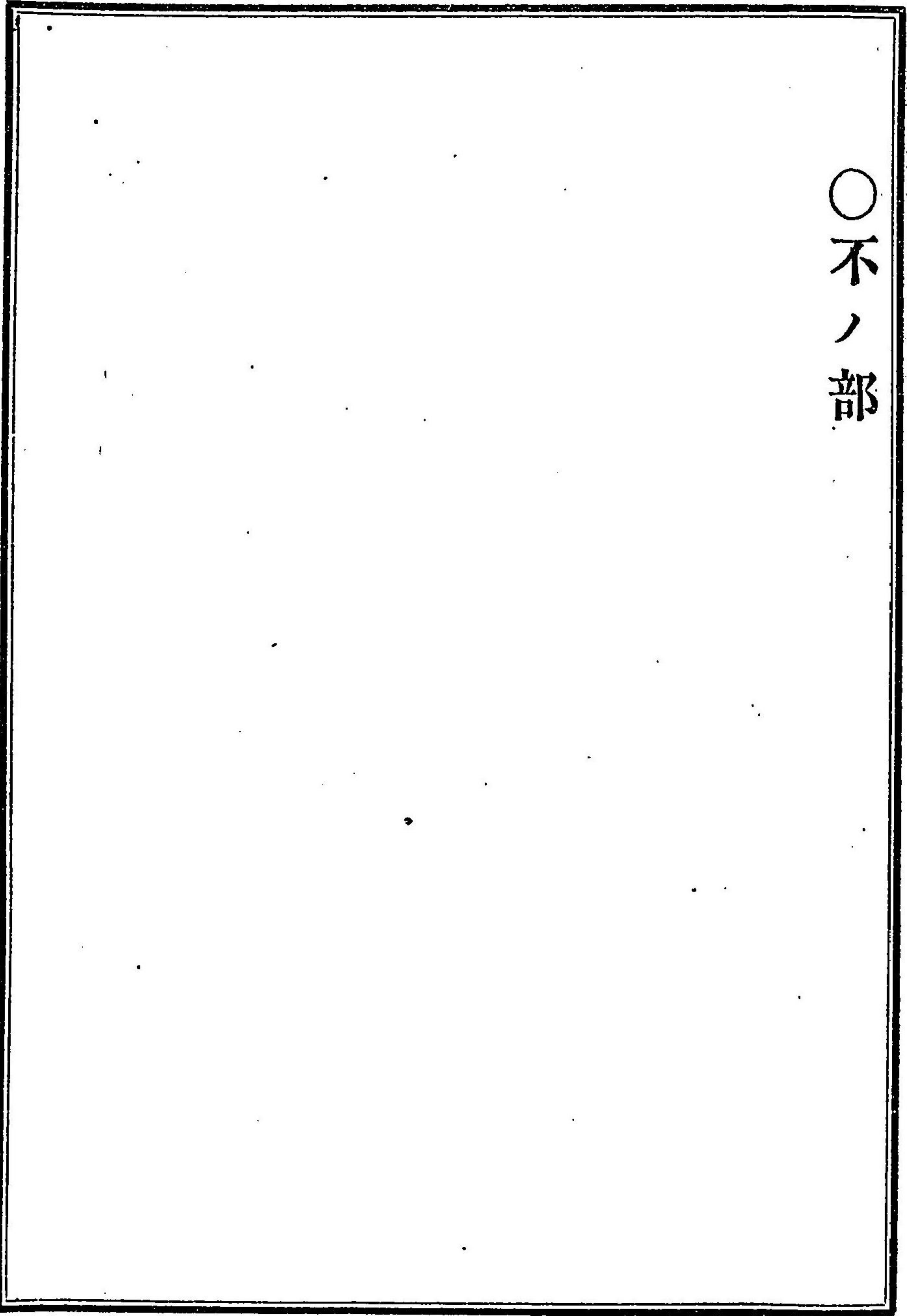
第九條 管内ニ於テ儀式慶典若クハ變災事故アリテ儀仗或ハ警護ノ爲メ地方長官ヨリ兵隊ヲ要スル事由ヲ具シテ之ヲ請フ時ハ鎮臺司令官ノ區處ヲ請フ可シ但事火急ニシテ區處ヲ請フノ暇ナキ時ハ之ニ應シ然ル後之ヲ報告ス可シ

第十條 出師準備ハ定規ニ從ヒ遺算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬召集物品徵發運輸等ノ方法ヲ整ヘ又後備兵ニ支給ス可キ武器彈藥被服陳具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保存ノ事ヲ擔任セシム可シ



第十一條 管内ニ在ル下士及兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ地方官ノ通牒ヲ受理  
シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ナキモノハ鎮臺司令官ニ具申シテ區處ヲ承  
ク可シ

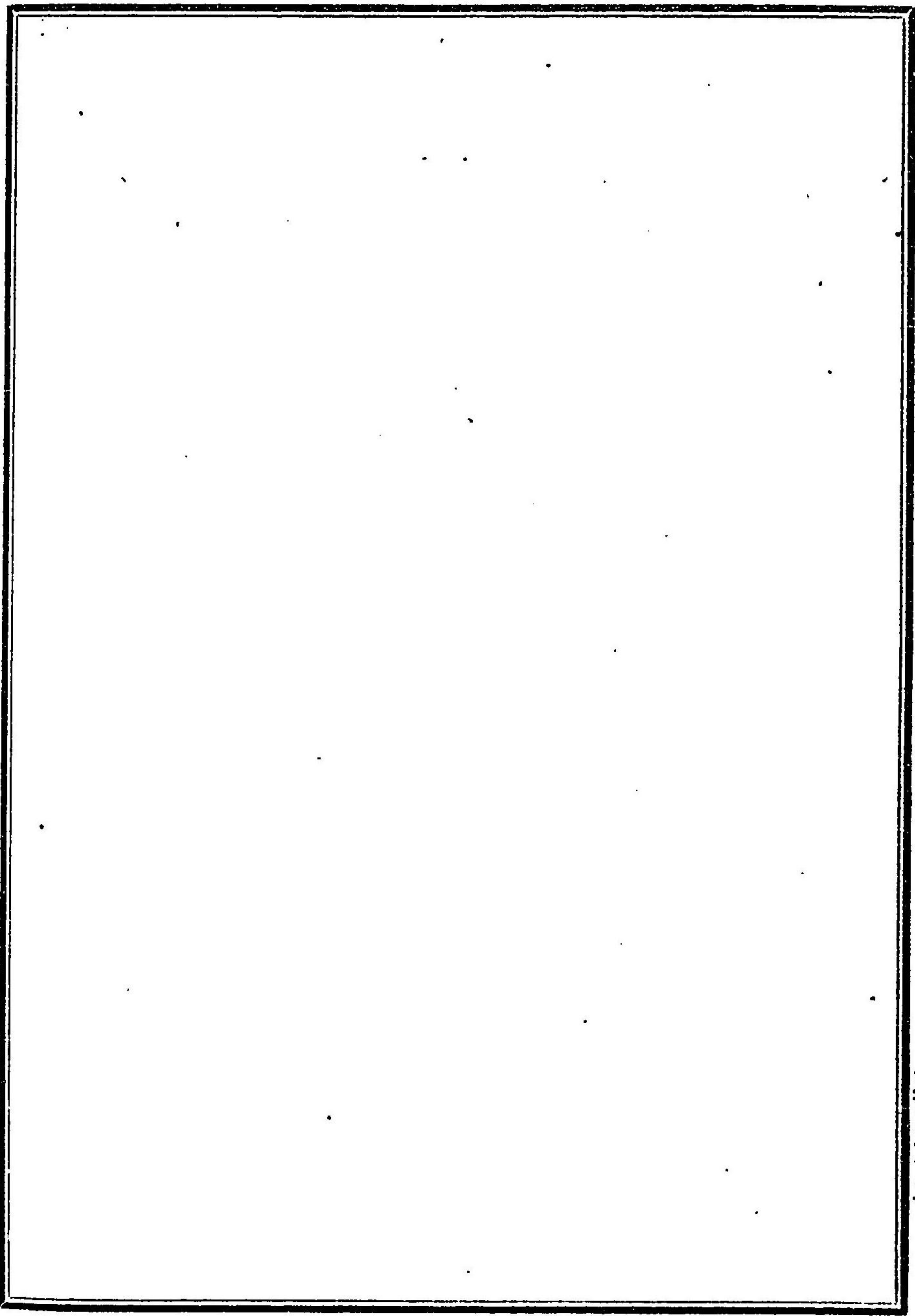




○不ノ部

フ

三四三三



三四三三



○古ノ部

○戸籍法

○明治五年正月十三日第四號布告

戸籍法中心得方區々相成候ヶ條并改正ノ廉左之通ニ候條本書ニ照準シ取捨可  
致事

戸籍編制ノ事

戸籍編制ハ來申年正月晦日現在ノ人員ヲ根據トシ同二月一日ヨリ凡百日ノ間  
ハ右人員検査ノ日限ナレハ右日限中ノ増減ハ翌年正月ノ取調ニ因テ改ムヘキ  
事

死者届方期限ノ事

死者埋葬所ニ於テ記録届方ノ儀毎年十二月中迄ノ分翌年二月中ニ大藏省ヘ可



差出事

戸長副給料ノ事

戸長副給料并入費ハ凡テ下方ヨリ取立相當支給可致事

番號ノ事

番號ハ地所ニ就テ之ヲ數フ然レモ戸數點檢ノ爲メ戸毎ニ番號ヲ貼スルハ地方ノ便宜ニ任ス可キ事

送籍證ノ事

凡送籍スル者華士族卒僧尼舊神官ハ戸長へ申立管轄廳ノ證ヲ受ケ平民ハ戸長副連印ノ證ヲ可與事

但平民ノ出入臣民ノ出産死去等前月分取集メ翌月戸長副ヨリ其廳へ可相届事

囚獄及徒流人ノ事

囚獄人及ヒ徒流人等其管轄内戸籍アル者ハ戸籍表へ載セ他管轄内ノ者ハ寄留

表中ニ書載ス可キ事

總計表并届期限ノ事

戸籍及ヒ職分寄留總計并表共別紙雛形ノ通改正相成候事

但來申年ハ戸籍共七月中届出爾後ハ一ケ年分翌正月中取調二月ニ至可届出事

寄留者ノ事

凡寄留スル者ノ届書ハ官員神官華士族卒僧尼舊神官ハ當人兵隊ハ隊長平民ハ戸主備主請人ノ内ニテ證印シ且寄留ノ地ニ於テ一戸ヲナセシ者ハ其管下ノ者同様届書へ屋敷番號ヲ記シ其區戸長へ届ケシムヘシ戸長ハ總躰ノ届書ヲ集メ式ノ如ク寄留總計ヲ作り其廳へ出シ其廳之ヲ受ケ寄留表へ書載ス可キ事

戸籍總計書式

某府 第何區戸籍總計

何郡 何村 何村 何町 何町 合何ヶ村町



戶數	何軒
內 家持	何軒
借家	何軒
社	何十
寺	何十
華族何人同家族何人內	男何人 女何人
士族何人同家族何人內	男何人 女何人
卒 何人同家族何人內	男何人 女何人
僧 何人同家族何人內	男何人 女何人
舊神官何人同家族何人內	男何人 女何人
尼 何人同弟子何人	何人
平民何人同家族何人內	男何人 女何人
人員總計	
內 男何人	

十四以下	何人	十四以上	何人	十五以上	何人
二十一以上	何人	六十以上	何人	八十以上	何人
女何人		內			
癘疾	男何人 女何人	出生	男何人 女何人		
囚獄	男何人 女何人	流刑	男何人 女何人		
徒刑	男何人 女何人				
死亡	男何人 女何人				
右之通相違無之候					
年號干支月					
第何區戶長	氏名	印			
同副	氏名	印			







徒刑	囚獄	脩行人	雇人	雜業	商	工	農	尼	筆學	算術	武術
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	何人	女男	女男	女男
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
流出	出生	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同弟子	同家族	同家族	同家族	同家族
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	何人	女男	女男	女男	女男
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人

醫術	兵學	佛學	英學	支那學	皇學	從者	僧	兵隊	卒	士族	華族	神官
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	何人	何人	何人	何人	何人	女男
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族	同家族
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	何人	何人	何人	何人	何人	何人
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人
何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人	何人



死亡 男 何人  
女 何人  
右之通相違無之候

年號干支月

第何區戶長 氏名 印  
同副 氏名 印

某府縣戶籍表

區村	五〇三〇〇	五〇三〇〇
社	五〇三〇〇	五〇三〇〇
族華	二二五	二二五
族家同	六〇六	六〇六
族士	二〇一	二〇一
族家同	九〇九	九〇九
卒	七六	七六
族家同	二〇〇	二〇〇
僧	三〇〇	三〇〇
族家同	六〇六	六〇六
子弟同	七〇七	七〇七
官神舊	一七七八	一七七八
族家同	三〇〇	三〇〇
尼	一〇〇	一〇〇
子弟同	六〇〇	六〇〇
民平	五〇〇	五〇〇
族家同	三〇〇	三〇〇
員人總	三三六	三三六
男	三三六	三三六
以下十四	三三六	三三六
以上十五	三三六	三三六
以上廿一	三三六	三三六
女	三三六	三三六
以下十四	三三六	三三六
以上十五	三三六	三三六
以上廿一	三三六	三三六
疾癩	一七	一七
男	一七	一七
生出	八	八
男	八	八
獄囚	八	八
男	八	八
刑流	二六	二六
男	二六	二六
刑徒	一八〇	一八〇
男	一八〇	一八〇
刑徒	一〇〇	一〇〇
男	一〇〇	一〇〇

前年人員若干若干  
現在人員若干若干

職分表

官	男	女
神	男	女
兵	男	女
從	男	女
皇	男	女
支	男	女
那	男	女
英	男	女
佛	男	女
兵	男	女
醫	男	女
武	男	女
算	男	女
筆	男	女
農	男	女
工	男	女
商	男	女
雜	男	女
雇	男	女
人	男	女
女	男	女

年號干支月

- 一、千ノ印
- 一 戶籍表ハ區内ノ人民泄ル、一ナク何レモ本籍ヲ以テ記載スヘシ
- 一 華士族卒僧尼ノ外總テ平民籍ヘ記スヘシ
- 一 舊神官ハ士族卒平民中ヘ入籍致スヘク管ナレモ未タ其處分學ラサル者ヲ記スヘシ
- 一 職分ハ總テ本籍ニ於テ現在ノ業ヲ記スヘシ假令ハ農商ヨリ官員トナレハ農商ヲ除クヘシ然レ共不得巳事情アリ其家族猶舊メハ名代ヲ以農商ニ數フヘシ又農商ヨリ從者雇人トナルモ是ニ倣フヘシ若シ兼業アレハ本業ノミヲ書載スヘシ
- 一 官員神官兵隊從者雇人ハ戶主家族ニ拘ラス各其職業ニ在ルモノヲ數ヘ農工商雜業ノ類戶主ハ幼年ト雖トモ之ヲ數ヘ家族ハ論セス十五歲以上ニシテ職業ニ從事スル者及其戶主ト職業ヲ異ニスル者ハ各其職業ノ目ニ記載スヘシ
- 一 但シ癩疾ノ者ト雖トモ職業アル者ハ其職ノ目ニ記載スヘシ
- 一 神官トハ凡テ新任ノ神官ヲ云ナリ
- 一 官員神官華士族卒兵隊僧尼舊神官ノ召仕ハ從者ノ部平民ノ召仕ハ雇人ノ部ニ入レ工商ニ屬セサル者ハ雜業ノ部ヘ書載スヘシ
- 一 皇學以下學術ノ部ハ凡テ專門開業ノ者ヲ云ト雖モ農商中碩學ナルモノハ各學術ノ目ニモ記載スヘシ
- 一 洋學ノ如キ各國ノ學名アルハ離形ノ通幾段ニモ區限ヲ作り各其專門ノ國名ヲ記スヘシ



死亡 男 何人  
女 何人

右之通相違無之候

年號干支月

第何區戶長 氏名 印  
同副 氏名 印

某府縣戶籍表

八五〇	一八	族家同	男	九	七
九四	九	卒	男	九	七
五〇	二五	族家同	男	一〇	二
一七	二二	僧	男	一〇	〇
七〇	三二	族家同	男	六	〇
三〇	九	子弟同	男	一	〇
七〇	二	官神齋	男	一	〇
一七	七	族家同	男	〇	〇
三八	五	尼	男	〇	〇
二〇	〇	子弟同	男	〇	〇
六〇	〇	民平	男	〇	〇
〇〇	〇	族家同	男	〇	〇
〇〇	〇	員人總	男	三	六
七	三	男	以下十四	三	六
五	三	男	以上十五	三	六
五	三	男	以上廿一	三	六
五	三	女	以下十四	三	六
五	三	女	以上十五	三	六
五	三	疾	癡男	一	七
九	八	生	出男	三	九
五	三	女	獄	三	六
五	三	女	刑	一	八
五	三	女	刑	一	八
五	三	女	亡	〇	〇
五	三	女	男	〇	〇

現前人員若干若干増減

職分表

女	男	皇	支	英	佛	兵	醫	武	筭	筆	農	工	商	雜	雇	人員
學	學	學	學	學	學	學	術	術	術	學	女	女	女	女	女	女
女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男
支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支
那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那
支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支
英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英
佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛
佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛
兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵
醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫
武	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武
筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭
筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆
農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農
工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工
商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商
雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜
雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇	雇
人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男

下支月

民泄ル、一ナク何レモ本籍ヲ以テ記載スヘシ

總テ平民籍ヘ記スヘシ

民中ヘ入籍致スヘク管ナレモ未タ其處分舉ラサル者ヲ記スヘシ

於テ現在ノ業ヲ記スヘシ假令ハ農商ヨリ官員トナレハ農商ヲ除クヘシ然レ共不得巳事情アリ其家族猶舊業ヲ營

ニシテ數フヘシ又農商ヨリ從者雇人トナルモ是ニ倣フヘシ若シ兼業アレハ本業ノミヲ書載スヘシ

雇人ハ戶主家族ニ拘ラス各其職業ニ在ルモノヲ數ヘ農工商雜業ノ類戶主ハ幼年ト雖トモ之ヲ數ヘ家族ハ男女ヲ

ニシテ職業ニ從事スル者及其戶主ト職業ヲ異ニスル者ハ各其職業ノ目ニ記載スヘシ

者ト雖トモ職業アル者ハ其職ノ目ニ記載スヘシ

ノ神官ヲ云ナリ

兵隊僧尼舊神官ノ召仕ハ從者ノ部平民ノ召仕ハ雇人ノ部ニ入レ工商ニ屬セサル者ハ雜業ノ部ヘ書載スヘシ

ハ凡テ專門開業ノ者ヲ云ト雖モ農商中碩學ナルモノハ各學術ノ目ニモ記載スヘシ

學名アルハ離形ノ通幾段ニモ區限ヲ作り各其專門ノ國名ヲ記スヘシ



年	支	干	正	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一月	十二月	閏月
戸															
計															
男															
女															
同															
家															
族															
同															
神															
官															
同															
家															
族															
同															
士															
族															
同															
家															
族															
同															
兵															
隊															
同															
家															
族															
同															
皇															
學															
同															
家															
族															
同															
支															
那															
學															
同															
家															
族															
同															
英															
學															
同															
家															
族															
同															
佛															
學															
同															
家															
族															
同															
兵															
學															
同															
家															
族															
同															
醫															
術															
同															
家															
族															
同															
武															
術															
同															
家															
族															
同															
算															
術															
同															
家															
族															
同															
筆															
學															
同															
家															
族															
同															
尼															
子															
同															

各府縣ヨリ當府縣エ寄留  
 當府縣ヨリ他ノ府縣エ寄留ノ者此例ニ準シ同様差出ス  
 ヘシ尤戸數ハ戶籍表中ニ入ルヲ勿論ナレハ記載不及事



年	正月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	閏月
支干號年													
數戶													
總人員													
男													
女													
官													
同族家													
神													
同族家													
華													
同族家													
士													
同族家													
卒													
同族家													
兵													
同族家													
僧													
同族家													
子弟													
同族家													
皇													
學													
同族家													
支													
那													
同族家													
英													
學													
同族家													
佛													
學													
同族家													
兵													
學													
同族家													
醫													
術													
同族家													
武													
術													
同族家													
筭													
術													
同族家													
筆													
學													
同族家													
子弟													
同族家													
工													
族													
同族家													
商													
同族家													

各府縣ヨリ當府縣ニ寄留

當府縣ヨリ他ノ府縣ニ寄留ノ者此例ニ準シ同様差出ス  
 ヘシ尤戸數ハ戸籍表中ニ入ルコト勿論ナレハ記載不及事







官名	品	職	階	定員	備考
總領事	正	一等	奏任	1	各領事官
副領事	正	二等	奏任	1	各領事官
領事	正	三等	奏任	1	各領事官
領事	正	四等	奏任	1	各領事官
領事	正	五等	奏任	1	各領事官
領事	正	六等	奏任	1	各領事官
領事	正	七等	奏任	1	各領事官
領事	正	八等	奏任	1	各領事官
領事	正	九等	奏任	1	各領事官
領事	正	十等	奏任	1	各領事官
領事	正	十一等	奏任	1	各領事官
領事	正	十二等	奏任	1	各領事官
領事	正	十三等	奏任	1	各領事官
領事	正	十四等	奏任	1	各領事官
領事	正	十五等	奏任	1	各領事官
領事	正	十六等	奏任	1	各領事官
領事	正	十七等	奏任	1	各領事官
領事	正	十八等	奏任	1	各領事官
領事	正	十九等	奏任	1	各領事官
領事	正	二十等	奏任	1	各領事官

各領事官ニ當リテ其ノ職務ニ依リテ其ノ階級ニ定ムルコトヲ得ル

○交際官及領事官制

○明治十九年三月十七日勅令第五號

朕交際官及領事官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御各 御 璽

交際官及領事官制

第一條 交際官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使 勅任一等

辦理公使 勅任二等

代理公使 奏任一等

公使館參事官 奏任一等

公使館書記官 奏任二等三等四等

交際官試補 奏任五等六等

第二條 各公使館ニ書記生ヲ置ク判任トス專ラ公使館會計ノ事務ニ從事セシム

第三條 交際官ノ未タ任所ヲ命セラレサルモノハ無任所外交官トシテ外務省ニ出仕シ外務大臣ノ指命スル所ニ就キ省務ニ從事ス

無任所外交官ハ公使五人參事官書記官交際官試補十六人ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條 領事ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

總領事 奏任一等

領事 奏任二等三等四等

副領事 奏任五等六等

コ



領事館書記生 判任

第五條 領事ヲ置カサルノ地ニ於テハ便宜貿易事務官ヲ置クコトヲ得  
貿易事務官ハ奏任三等以下トス

○交際官並領事費用條例

○明治十九年七月八日勅令第四拾九號

朕交際官並領事費用條例ノ改正ヲ裁可ス

御名 御璽

交際官並領事費用條例

第一條 海外在勤ノ公使領事以下官員ノ年俸ハ第壹號表ニ照シテ之ヲ支給ス但任  
所着翌日ヨリ起算シ任所出發ノ前日マテ日割ヲ以テ支給ス

第二條 公使領事參事官書記官赴任前許可ヲ得テ妻ヲ攜帶スル者及赴任後許可ヲ

得テ任所へ妻ヲ呼寄スル者ハ總テ其妻任所着翌日ヨリ起算シ任所出發歸朝ノ前  
日マテ日割ヲ以テ妻攜帶ノ俸給ヲ支給ス

第三條 出發前ノ俸給ハ新拜命ノ官員出發前滯京ノ日數ヲ六十日ト定メ第貳號表  
ニ照シ通貨ヲ以テ支給ス妻攜帶ノ許可ヲ得タル公使領事參事官書記官ニハ其給  
額ノ二割増ヲ支給ス

第四條 前條ノ期限内ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ出發前ノ俸給ヲ六十日ニ  
分割シ前任所後任所ニ從ヒ支給ス又出發ノ延期ヲ命セラレタル者ハ六十日以後  
ハ第四號表公用滯京ノ項ニ照シテ支給シ病氣ニテ出發ノ延期ヲ願出タル者ハ同  
表養痾歸朝ノ項ニ照シテ支給ス

第五條 出發前三十日以内ニ於テ免官セラレタル者及赴任ヲ免セラレタル者ハ出  
發前俸給ノ半額ヲ返納セシムヘシ又免官免任ノ期三十日以後ニ方レハ其給額ヲ  
六十日ニ割リ之ヲ返納セシムヘシ  
其願ニ依リ赴任ヲ免セラレタル者ハ悉皆返納セシムヘシ



第六條 往返旅中俸給ハ本邦任所往返旅中上陸賄料馬車代公用郵便稅電信料接待費等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第七條 往返旅中俸給ハ現日數ニ拘ハラヌ又赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景況視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ地方へ巡回スルニ拘ハラヌ第三號表本任所ノ項ニ就テ支給ス

第八條 養病歸省等願ニ依リ歸朝スル者ニモ亦前條ノ俸給ヲ支給スト雖モ任所ニ於テ免官ノ者ニハ之ヲ支給セス

第九條 任所往返ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡回シ或ハ航行中非常ノ事故アリテ郵船ヲ待合セ又ハ某港ニ滞留スル者之カ爲メ第三號表中限日數ヨリ延着スルトキハ外務大臣定ムル所ノ費額ヲ支給ス

第十條 甲地在勤ノ者乙地へ任所替ヲ命セラレタルトキハ旅中俸給トシテ甲地出發ノ日ヨリ乙地着任ノ日マテヲ算シ本邦任所往返旅中俸給ノ額ヲ日割トシ現日數ニ乘シテ支給ス

第十一條 公使領事交代スルトキ公使ハ解任狀捧呈謁見濟ノ日ヲ以テ事務ヲ引繼キ領事ハ新任領事到着ノ日ヨリ一週間内ニ之ヲ引繼キ共ニ其當日ヨリ三週間内ニ其任所ヲ發程スヘシ

第十二條 公使領事歸朝ヲ命セラレ又ハ歸朝ノ許可ヲ得或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ其命令到達ノ日ヨリ三週間内ニ事務ヲ其代理者ニ引繼キ任所ヲ發程スヘシ

第十三條 參事官書記官交際官試補書記生ノ交代并歸朝任所替發程期日ハ第十一條第十二條ノ例ニ同シ

第十四條 發程ノ延期ヲ命セラレタル者ノ外公館ノ公務ニ依リ發程ノ延期ヲ要スル者ハ外務大臣ノ許可ヲ得テ仍ホ一週間延期スルコトヲ得ヘシト雖モ此延期中ハ公使領事ハ年俸二分ノ一參事官以下ハ年俸三分ノ二日割ヲ以テ支給ス病氣其他事故ニ依リ出發ヲ延期セシ公使領事ニハ年俸三分ノ一參事官以下ニハ年俸二分ノ一日割ヲ以テ支給ス



第十五條 任所ヲ轉スル者ニハ事務引繼濟ニ拘ハラズ新任ノ年俸ヲ支給ス

第十六條 公使領事公用ニテ在留國內外ニ旅行スルトキ其代理ヲ任スルコトアルモ事務ノ引繼ヲ爲スニ及ハス故ニ代理者ニ代理年俸ヲ支給セスシテ公館費用ハ公使領事ノ擔任トス

第十七條 公使領事任所不在中其代理者ニハ本任官出發ノ日ヨリ起算シ本官ノ年俸ヲ支給セス代理年俸ヲ支給ス本任官歸任スルカ或ハ新任公使領事到着スルトキハ事務引繼ノ日數ニ拘ハラズ着翌日ヨリ代理者ニ代理年俸ヲ支給セス

第十八條 交代濟歸朝ノ後無任所外交官ヲ命セラレザル者ニハ着京翌日ヨリ百八十日ヲ限リ第四號表交代濟歸朝日當ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス此期滿レハ官吏非職條例ニ依リ非職ヲ命ス但非職俸ハ交代濟歸朝日當ノ三分ノ二ヲ以テ算出スヘシ

第十九條 在勤滿三箇年以上ニ滿リ外務大臣ノ許可ヲ得往復順路ノ日數ヲ除キ六箇月間賜暇歸朝ノ者ニハ着京翌日ヨリ第四號表賜暇歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支

給ス

休暇期日ヲ過キ病氣其他ノ事故ニ依リ歸任ヲ延期スル者ニハ同表養病滯京ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十條 公用ニテ歸朝ヲ命セラレタル者及航海不便ノ港ニシテ每歲冬季例ニ從ヒ閉館シ隨テ歸朝スル者ノ日給支給法亦前條ニ同シ

第二十一條 歸省養病等ノ許可ヲ得テ歸朝スル者ニハ着京翌日ヨリ第四號表養病歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十二條 臨時代理公使ニハ代理公使ノ年俸ヲ支給ス

第二十三條 貿易事務官其他特設ノ官名ヲ以テ領事ノ職務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ其官等ニ應シ領事ノ例ニ照シテ年俸其他ノ支給ヲ爲スヘシ

第二十四條 公使領事以下死亡シタルトキハ第四號表一時賜金年俸三分ノ一ヲ給與ス海外ニ於テ死亡シタル者ニハ別ニ在勤年俸一箇月分ヲ支給ス  
赴任前死亡シタルトキハ出發前ノ俸給ヲ返納セシムルニ及ハス

コ































同書	同書	同書	同書	同書	同書	同書
記	記	記	記	記	記	記
生	生	生	生	生	生	生
年四級	年五級	年六級	年七級	年八級	年九級	年十級
壹圓三拾貳錢	壹圓拾五錢	九拾九錢	八拾貳錢	六拾六錢	四拾九錢	三拾九錢
九拾九錢	八拾六錢	七拾四錢	六拾貳錢	五拾錢	四拾錢	貳拾九錢
六拾六錢	五拾八錢	五拾錢	四拾壹錢	三拾三錢	貳拾五錢	貳拾錢
四拾五錢	四拾錢	三拾五錢	三拾錢	貳拾五錢	貳拾錢	拾八錢
四百八拾圓	四百貳拾圓	三百六拾圓	三百圓	貳百四拾圓	貳百圓	百四拾圓

○公證人規則

○明治十九年八月十三日法律第貳號

朕公證人規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

公證人規則

第一章 總則

第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務ト爲ス

第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作りタルトキハ公正ノ効ヲ有セズ

第三條 公證人ノ作りタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スルカアルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルヲ得

第四條 公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ受ク可シ



已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限り役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキ囑託人ノ求メアルハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條 公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出ス可シ

前項ノ印鑑ヲ差出ツ、ル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第十一條 公證人已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ管轄始審裁判所ニ其旨ヲ届出可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及謄本ノ用紙ハ某始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル野紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ

第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

コ



第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キ

モノ

第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 見出帳 日々授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メ  
ノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡スコカラス

第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩スコカラス

第二章 公證人ノ選任及試験

第十八條 公證人タル可キ者ハ左ノ件々ヲ具備スルヲ要ス

第一 滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ル、事

第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大

學卒業生代言人ハ此條件ヲ要セス

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ貳百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法  
大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐僞罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クモ二箇月前ニ  
告示ス可シ

第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名檢察官一名トシ司

コ



法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄始審裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書代言人ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知リ面識アルヲ必要トシ且

丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ヲキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戸長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知リ面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲グル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第三十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ



族籍住所職業氏名年齢

第四 郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齢

第五 證書ヲ作リシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス  
接續ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フ可シ  
第三十二條 度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ  
既ニ廢シタル度量衡貨幣曆法又ハ外國ノ度量衡貨幣曆法ヲ記セサルヲ得サル  
場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタル  
コトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ

爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタル  
コトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタル  
トキハ追加改正消字ノ効ヲ有セス

第三十四條 證書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人  
並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某治安裁判所管内某地住居ト肩書ス可シ  
公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五拾號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違  
ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代  
理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタル  
コトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其



證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記シ可カラス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連綴ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連綴スルコトヲ得之ヲ連綴シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限り

權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効ヲ有セス

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作りタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作りタル後

ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員

又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作りタルトキハ其末尾並ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第

三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作りタル年月日及場所ヲ記シ公證



人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄始審裁判所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可カラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラズ之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非ザレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ズ之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡スコトヲ命スルコトアル可シ  
其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡スコシ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其



命令書ヲ原本ニ連続シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節 見出帳

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件件ヲ記入ス可シ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シ

テ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條 公證人免職辭職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十條 公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス



書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ

兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作リ受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ

第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記ス可シ

本任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ罫紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ



得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラズ管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ

第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第二十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第二十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ讀聞セシユトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サ、リシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

コ



第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第二十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院



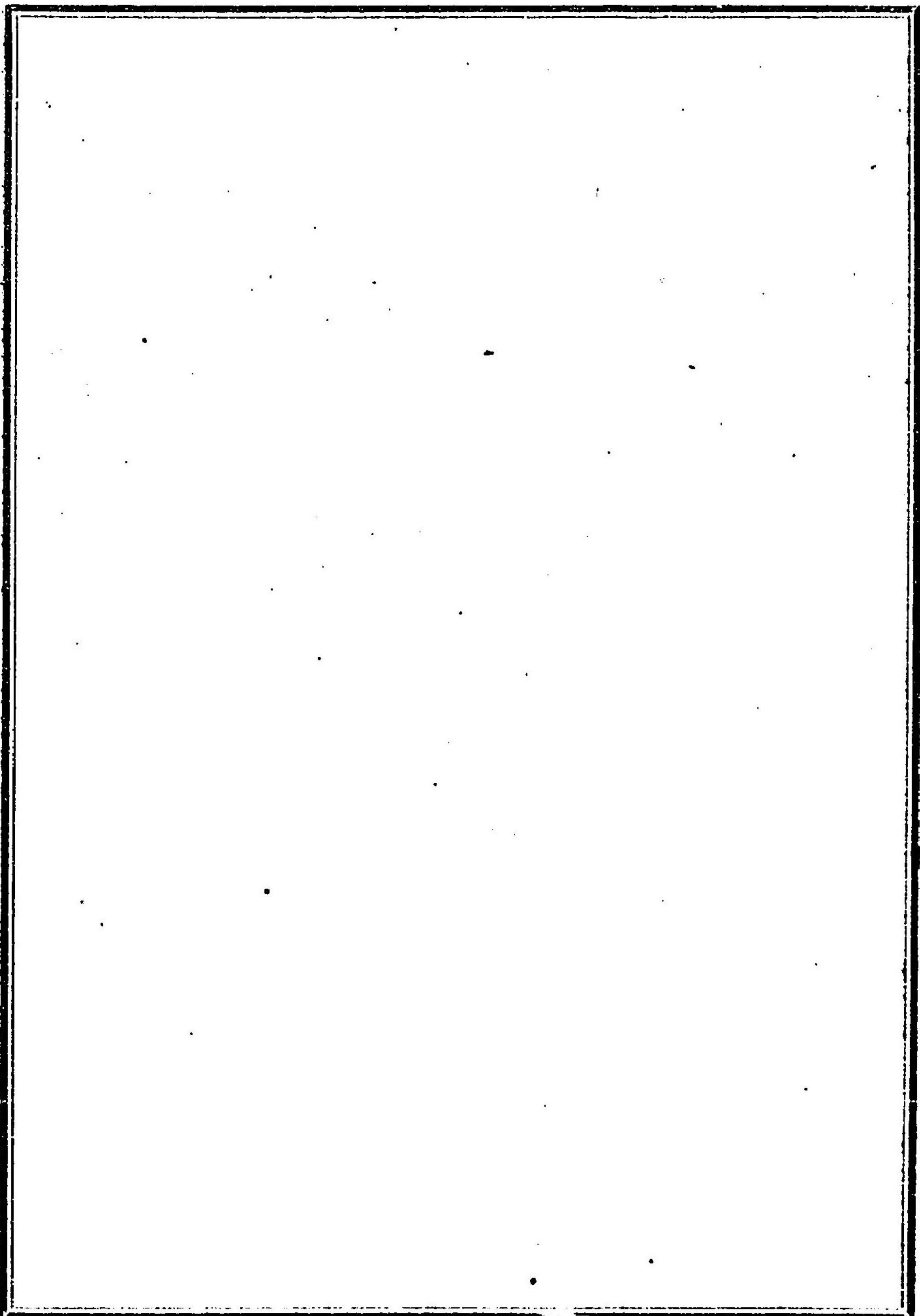
ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲ニ度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス

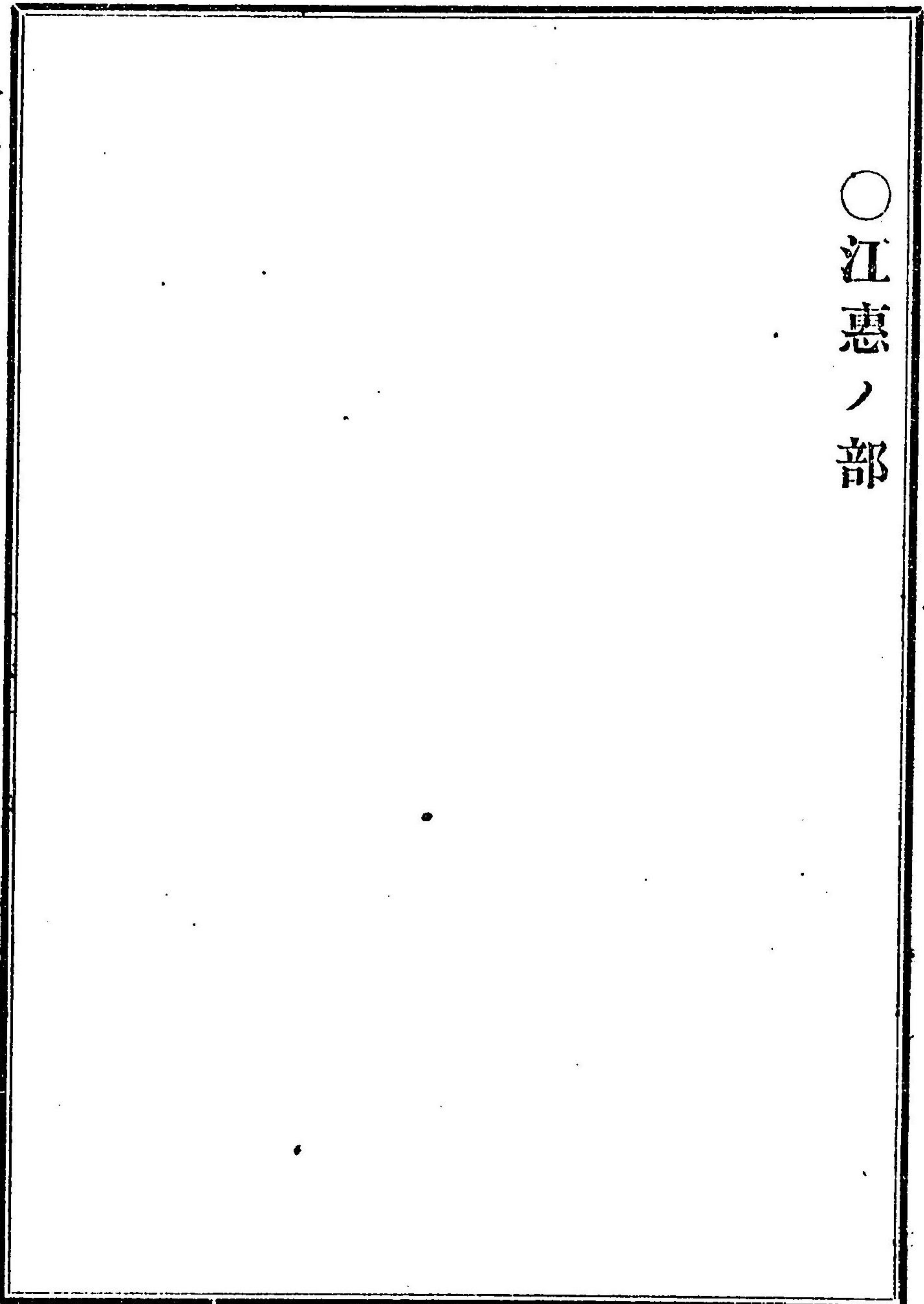
第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身許保證金ヲ差入レサル  
トキ亦前項ニ同シ

第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之  
ヲ賠償ス可シ





○江惠ノ部





○天ノ部

○帝國大學令

○明治十九年三月二日勅令第三號

朕帝國大學令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

帝國大學令

第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ目的トス

第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り

テ



學術技藝ノ蘊奥ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス

第五條 帝國大學職員ヲ置ク左ノ如シ

總長 勅任

評議官

書記官 奏任

書記 判任

第六條 帝國大學總長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ帝國大學ヲ總轄ス其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 帝國大學ノ秩序ヲ保持スル事

第二 帝國大學ノ狀況ヲ監視シ改良ヲ加フルノ必要アリト認ムル事項ハ案ヲ具ヘテ文部大臣ニ提出スル事

第三 評議會ノ議長トナリテ其議事ヲ整理シ及議事ノ顛末ヲ文部大臣ニ報告スル事

第四 法科大學長ノ職務ニ當ル事

第七條 評議會ハ便宜ニ從ヒ帝國大學若クハ文部省ニ於テ開設ス評議會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

第一 學科課程ニ關スル事項

第二 大學院及分科大學ノ利害ノ銷長ニ關スル事項

第八條 評議官ハ文部大臣各分科大學教授ヨリ各二人ヲ特選シテ之ニ充ツ

第九條 評議官ハ五箇年ヲ以テ任期トス任期滿ツルノ後時宜ニ依リ更ニ勤績ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大学文科大學及理科大學トス

法科大學ヲ分テ法律學科及政治學科ノ二部トス

第十一條 各分科大學職員ヲ置ク左ノ如シ

長 奏任

教頭 奏任

テ



教授 奏任

助教授 奏任

舍監 奏任

書記 判任

第十二條 分科大學長ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

分科大學長ハ帝國大學總長ノ命令ノ範圍内ニ於テ主管科大學ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 各分科大學ノ教頭ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

教頭ハ教授及助教授ノ職務ヲ監督シ及教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第十四條 各分科大學ノ教授助教授ノ人員ハ其學科ノ輕重及學生ノ員數ニ應シテ

別ニ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○帝國大學職員官等

○明治十九年三月二十七日勅令第九號

朕茲ニ帝國大學ノ職員官等ヲ裁可ス

御名 御璽

帝國大學職員官等

總長 勅任 自一等至二等

分科大學長 奏任 自一等至二等

教頭 奏任 自一等至二等

教授 奏任 自一等至四等

書記官 奏任 自二等至六等

助教授 奏任 自四等至六等

舍監 奏任 自四等至六等

書記 判任



○遞信管理局名稱位置及管轄區域

○明治十九年四月二十四日勅令第貳拾三號

朕遞信管理局名稱位置及管轄區域ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

遞信管理局名稱位置及管轄區域

東京遞信管理局

位置 武藏國 東京

管轄區域 東京府 神奈川縣 靜岡縣 山梨縣 埼玉縣 千葉縣

茨城縣 群馬縣 栃木縣

大阪遞信管理局

位置 攝津國 大阪

管轄區域 大阪府 京都府 兵庫縣 滋賀縣 和歌山縣

新潟遞信管理局

位置 越後國 新潟

管轄區域 新潟縣

函館遞信管理局

位置 渡嶋國 函館

管轄區域 北海道 青森縣

名古屋遞信管理局

位置 尾張國 名古屋

管轄區域 愛知縣 三重縣 岐阜縣

岡山遞信管理局

位置 備前國 岡山

管轄區域 岡山縣 廣嶋縣

赤間關遞信管理局

テ



位置	長門國 赤間關
管轄區域	山口縣 福岡縣 大分縣 長崎縣 佐賀縣
松江遞信管理局	
位置	出雲國 松江
管轄區域	鳥取縣 島根縣
熊本遞信管理局	
位置	肥後國 熊本
管轄區域	熊本縣 宮崎縣 鹿兒嶋縣 沖繩縣
丸龜遞信管理局	
位置	讚岐國 丸龜
管轄區域	愛媛縣 德島縣 高知縣
金澤遞信管理局	
位置	加賀國 金澤

管轄區域	石川縣 福井縣 富山縣
長野遞信管理局	
位置	信濃國 長野
管轄區域	長野縣
福島遞信管理局	
位置	岩代國 福島
管轄區域	福島縣
仙臺遞信管理局	
位置	陸前國 仙臺
管轄區域	宮城縣 岩手縣
山形遞信管理局	
位置	羽前國 山形
管轄區域	山形縣 秋田縣

テ



○阿ノ部

○亞米利加合衆國ト犯罪人引渡條約

○明治十九年十月八日勅令無號

朕帝國ト亞米利加合衆國トノ間ニ締結シタル兩國犯罪人引渡條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

日本國亞米利加合衆國犯罪人引渡條約譯文

日本皇帝陛下及ヒ亞米利加合衆國大統領ハ兩國内並ニ其管轄内ニ於テ司法事務ヲ益周到ナラシメ及ヒ犯罪ヲ防止センカ爲メ下ニ掲クル犯罪ニ付有罪ノ宣告若クハ告訴告發ヲ受ケ未タ處分ヲ經スシテ逃亡スル者ハ其情狀ニ據リ互ニ之ヲ引渡スノ便宜ナルヲ認メ之レカ爲メ條約ヲ締結スルコトニ決シ日本皇帝陛下ハ外務大臣伯爵井上馨ヲ亞米利加合衆國大統領ハ日本駐劄特命全權公使リチャード、ビー、ハッパ

ア



一ドヲ各其全權委員ニ命セリ因テ雙方全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ誠實適式ナルヲ認メ左ノ條々ヲ議定ス

第一條 締約國一方ノ管轄内ニ於テ第二條ニ掲クル犯罪ニ付有罪ノ宣告若クハ告訴告發ヲ受ケタル者他ノ一方ノ管轄内ニ於テ發見セラレタルトキハ締約兩國政府ハ本條約ニ開列スル情狀及ヒ制限ニ遵ヒ互ニ之ヲ引渡スヘシ

第二條

- 一 謀殺、謀殺未遂犯、其他殺人罪
- 二 貨幣ノ偽造若クハ變造、偽造若クハ變造貨幣ノ發行或ハ行使、公債證書、其利札、銀行紙幣、其他公衆ノ信用ヲ受クヘキ證書類ノ偽造並ニ其發行若クハ行使
- 三 文書ノ偽造若クハ變造並ニ其行使
- 四 監守盜即チ官吏又ハ監守人締約國一方ノ管轄内ニ於テ公金ヲ私用スル罪並ニ備主ノ損害トナルヘキ被備人ノ監守盜
- 五 強盜若クハ五拾弗以上ノ竊盜

- 六 重刑ニ當ル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ夜間若クハ晝間他人ノ家宅ヲ破壊シ之ニ侵入スル罪
- 七 重刑ニ當ル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ官衙、國立銀行、私立銀行、貯蓄銀行、財産管理會社、及保險會社並ニ其他會社ノ家屋ヲ破壊シ若クハ破壊セスシテ之ニ侵入スル罪
- 八 偽證及偽證教唆
- 九 強姦
- 十 放火
- 十一 國際法ニ於テ海賊ト認ムル罪
- 十二 引渡ヲ請求スル國ノ旗章ヲ掲ケタル船舶大洋航行中其船内ニ於テ犯シタル謀殺、謀殺未遂犯、及ヒ其他殺人罪
- 十三 惡意ヲ以テ鐵道、馬車鐵路、船舶、橋梁、家屋及ヒ公用建物並ニ其他ノ建物ヲ破壊シ若クハ破壊セント謀リ其所爲人命ニ危害ヲ生スヘキモノ

ア



十四 銀行營業者受託人、銀行若クハ財産管理會社ノ頭取役員ノ詐偽ニシテ現行法律ニ據リ罪トナルヘキモノ

第三條 請求ニ係ル人引渡ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ審判中ナルトキハ之ヲ引渡スト引續キ之ヲ審判スルトハ該國ノ隨意タルヘシ但其審判該逃亡人ノ引渡ヲ請求スル罪ノ爲メニアラサルトキハ一時其引渡ヲ遲滯スルコトアルモ終ニ之ヲ拒クコトヲ得ス

第四條 若シ請求ニ係ル人ヲ政事上ノ犯罪ニ付審判シ若クハ處刑セントスルノ目的ヲ以テ引渡ヲ請求シタリト認ムルトキハ其引渡ヲ爲サ、ルヘシ又引渡サレタル人ハ其引渡前ニ犯シタル政事上ノ犯罪ニ付審判若クハ處刑セラレ、コト無ルヘシ

第五條 引渡ノ請求ハ締約國相互ノ外交官ヲ經テ之ヲ爲スヘシ若シ外交官其國內又ハ其政府所在ノ地ニ駐留セサルトキハ高等領事官之ヲ爲スヘシ  
已ニ有罪ノ宣告ヲ受ケタル逃亡人ノ引渡ヲ請求スルニハ其宣告ヲ爲シタル裁判

所ノ證印アル宣告文寫其裁判官ノ職權ニ付相當行政官ノ證明書及ヒ其行政官ノ職權ニ付日本又ハ合衆國ノ公使若クハ領事ノ證明書ヲ添フヘシ若シ逃亡人告訴告發ヲ受ケタルノミナルトキハ請求國ニ於テ發シタル逮捕狀ノ公寫及其逮捕狀ヲ發スルノ根據トナリタル證據書類ノ公寫ヲ添フヘシ  
逃亡人ノ引渡ハ之ヲ發見シタル國ニ於テ本罪ヲ犯シタルモノトセハ該國ノ法律ニ遵ヒ之ヲ逮捕シ及ヒ審判ニ付スヘキ刑事上ノ證據充分ナル場合ニ限ルモノトス

第六條 本條約第二條ニ掲クル犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケタル逃亡人逮捕ノ爲メ相當官吏ヨリ逮捕狀ヲ發シタル旨外交官ヲ經由シ電報ヲ以テ通知アリ且該逃亡人引渡ノ請求ハ追テ本條約ノ條款ニ從ヒ之ヲ爲スヘキ旨該外交官ヨリ保證シタルトキハ締約國政府ハ假ニ之ヲ逮捕シ相當ノ期限内即チ二月ヲ超過セサル間之ヲ監禁シ其引渡請求ノ根據ト爲ルヘキ書類ノ提出ヲ待ツヘシ

第七條 締約國ハ本條約ノ條款ニ因リ互ニ其臣民ヲ引渡スノ義務ナキモノトス但

ア



其引渡ヲ至當ト認ムルトキハ之ヲ引渡スコトヲ得ヘシ

第八條 被告人ノ逮捕監禁訊問及ヒ送致ノ費用ハ其引渡ヲ請求シタル政府ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第九條 本條約ハ其批准交換後六十日ヲ經テ効力ヲ有スヘシ而シテ締約國ノ一方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ヘシト雖モ其廢止ノ通知ヲ爲シタル後六月間ハ仍ホ其効力ヲ存スヘシ

本條約ハ可成速ニ批准シ華聖頓府ニ於テ其批准ヲ交換スヘシ

右確證トシテ雙方ノ全權委員ハ各本條約ニ通ニ署名調印スルモノナリ

明治十九年四月二十九日即チ西曆第一千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ書ス

井 上 馨

リチャード、ビー、ハッパード

亞米利加合衆國政府ハ前條約ニ左ノ修正ヲ爲サンコトヲ請求セリ

第二條第一項「謀殺、謀殺未遂犯、其他殺人罪」トアルヲ「謀殺及ヒ其未遂犯」ト改ム

同條第四項「私用スル罪」ノ下「並ニ備主云々」ノ十九字ヲ削除ス

同條第五項「強盜」ノ下「若クハ五拾弗以上ノ竊盜」ノ十一字ヲ削除ス

同條第十四項全文ヲ削除ス

第四條中「其引渡前ニ犯シタル政事上ノ犯罪」ノ下「若クハ其引渡ヲ許シタル犯罪ノ外」ノ十五字ヲ追加ス

第六條中「相當官吏ヨリ」ノ下「妥當ノ證據アルニ依リ適法」ノ十三字並ニ「電報」ノ下「又ハ其他書面」ノ六字及ヒ「締約國政府ハ」ノ下「法律ノ範圍内ニ於テ」ノ九字ヲ追加ス

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス  
帝國及亞米利加合衆國兩全權委員ノ締結記名調印シタル兩國犯罪人引渡條約及ヒ亞米利加合衆國政府ノ發議ニ係ル該條約ノ修正事項ヲ朕親シク閱覽點檢セシニ能ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ總テ之ヲ嘉納批准シ日本帝國ニ於テ該修正

ア



ヲ加ヘダル兩國犯罪人引渡條約ヲ履行遵奉セシムルコトヲ茲ニ約ス  
神武天皇即位紀元二千五百四十六年明治十九年九月二十五日東京帝宮ニ於テ親カ  
ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 御璽

外務大臣伯爵井 上 馨

西曆千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ日本帝國及ヒ亞米利加合衆國ノ  
兩全權委員カ調印シタル犯罪人引渡條約ニ華聖頓府ニ於テ其批准ヲ交換スヘ  
キノ明文アリト雖モ兩締約國ハ其批准ヲ東京ニ於テ交換スルコトニ議定シ又  
條約ノ末文ニ西曆第一千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ書スト明文ア  
リト雖モ兩締約國ハ之ヲ西曆千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ書スト  
解スルコトニ議定シタリ因テ今下ニ連署シタル兩名ハ本件ニ關シ各其政府ヨ  
リ委任ヲ受ケ右條約批准交換ノ爲メ互ニ相會同シ雙方ノ批准ヲ精密ニ比照セ  
シニ孰レモ能ク符合スルヲ以テ定式ニ隨ヒ本日之ヲ交換セリ

右證トシテ下ニ連署シタル兩名ハ此交換證書ニ其名ヲ記シ印ヲ鈐ス

西曆千八百八十六年九月二十七日東京ニ於テ

井 上 馨

リチャード・ビー、ハッバード



○左ノ部

○各裁判所位置及管轄區畫

○明治十九年六月五日勅令第四拾五號

朕裁判所管轄區畫表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十六年<sup>一</sup>月<sup>一</sup>第貳號布告裁判所管轄區畫表中福島始審裁判所若松支廳管内若松治安裁判所管轄越後國東蒲原郡ヲ新潟始審裁判所新發田支廳管内新發田治安裁判所ノ管轄トス

○明治十九年八月二十六日勅令第六拾貳號

朕裁判所位置及管轄區畫表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

サ



御名 御璽

明治十六年<sup>月一</sup>第貳號布告裁判所位置及管轄區畫表中左ノ通改正ス

栃木始審裁判所ヲ宇都宮ニ移シ宇都宮始審裁判所ト改稱ス

栃木始審裁判所宇都宮支廳ヲ栃木ニ移シ宇都宮始審裁判所栃木支廳ト改稱ス

栃木始審裁判所管内栃木治安裁判所管轄郡名中<sup>上</sup>都賀トアルヲ<sup>上</sup>都賀ノ内、

下都賀ト改メ寒川安蘇築田足利ヲ併テ宇都宮始審裁判所栃木支廳管内栃木

治安裁判所ノ管轄トス

栃木始審裁判所宇都宮支廳管内宇都宮治安裁判所管轄郡名中河内ノ上<sup>上</sup>都

賀ノ内ノ五字ヲ加ヘ河内芳賀鹽谷那須ヲ併テ宇都宮始審裁判所管内宇都宮

治安裁判所ノ管轄トス

新潟始審裁判所管内新潟治安裁判所管轄郡名中<sup>中</sup>蒲原トアルヲ<sup>西</sup>中蒲原、<sup>南</sup>南蒲

原ノ内ト改ム

新潟始審裁判所長岡支廳管内長岡治安裁判所管轄郡名中<sup>南</sup>蒲原ノ内ノ五字ヲ加フ

大阪始審裁判所管内天王寺治安裁判所ノ管轄タル東區ヲ中ノ島治安裁判所ノ管轄ニ改ム

大阪始審裁判所管内中ノ島治安裁判所管轄郡名中西成ノ下ノ内木津川以西ノ七字ヲ加フ

大阪始審裁判所管内天王寺治安裁判所管轄郡名中西成ノ内木津川以東ノ九字ヲ加フ

○裁判所官制

○明治十九年五月五日勅令第四拾號

朕裁判所ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

サ



御名 御璽

裁判所官制

第一 職員

第一條 本令中裁判所トアルハ治安裁判所始審裁判所重罪裁判所控訴院大審院及高等法院ヲ總稱ス

裁判官トアルハ裁判所ノ長局長評定官判事及判事試補ヲ總稱シ檢察官トアルハ檢事長檢事及檢事試補ヲ總稱ス

第二條 治安裁判所始審裁判所控訴院大審院ニ左ノ職員ヲ置ク

治安裁判所

判事 一人 奏任五等

判事試補 若干員

檢事試補 一人

勸解吏 一人 判任

書記	判任
始審裁判所	
長	一人 奏任一等乃至四等
判事	若干員 奏任 <small>現任長ノ次等以下五等ニ至ル</small>
判事試補	若干員
檢事	若干員 奏任二等乃至五等
檢事試補	若干員
書記	判任
控訴院	
長	一人 勅任一等又ハ二等
評定官	若干員 奏任一等乃至四等
檢事長	一人 奏任一等

東京控訴院ニ限リ勅任二等ノ評定官及檢事長ヲ置クコトヲ得



檢事 若干員 奏任二等乃至四等  
 書記官 一人 奏任四等  
 書記 判任  
 大審院  
 長 一人 勅任  
 局長 三人 勅任二等  
 評定官 若干員 勅任二等又ハ奏任一等乃至二等  
 檢事長 一人 勅任二等  
 檢事 若干員 奏任一等又ハ二等  
 書記官 一人 奏任四等  
 書記 判任  
 第三條 第十七條ニ指定スル局長勅任ノ評定官ヲ以テ之ニ充ツルノ外ハ奏任一等ノ評定官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 重罪裁判所及高等法院ノ職員ハ治罪法ノ定ムル所ニ依ル  
 第五條 裁判所ノ職員中定員ヲ限ラサルモノハ判任官ヲ除クノ外事務ノ繁簡ニ應ジ司法大臣ノ閣議ヲ經テ定ムル所ニ依ル  
 第六條 試補ノ規則ハ別ニ定ムル所ニ依ル  
 第七條 治安裁判所管轄區域内ニ執行吏ヲ置ク判任トス  
 第八條 裁判官及檢察官トナルノ資格ハ別ニ試驗法ノ定ムル所ニ依ル  
 第九條 刑法第二編第四章第一節乃至第六節第九章第二節第二百八十四條乃至第二百八十七條第三編第二章第一節乃至第六節ニ掲クル重輕罪ヲ犯シテ有罪ナリトノ言渡ヲ受ケ其言渡ノ確定シタルモノハ裁判官及檢察官タルコトヲ得ス  
 第十條 大審院長局長評定官控訴院長檢事長及始審裁判所ノ長ヲ除クノ外裁判官及檢察官ノ任所ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル  
 第十一條 新ニ裁判官ニ任セラル、モノハ治安裁判所ニ於テ其職務ニ服シ治安裁判所裁判官又ハ檢察官ニシテ一年以上其職務ニ服シタルモノハ始審裁判所裁判



官ニ任スルコトヲ得

裁判官檢察官ニシテ五年以上其職務ニ服シタルモノハ控訴院裁判官ニ任スルコトヲ得

裁判官檢察官ニシテ十年以上其職務ニ服シタルモノハ大審院裁判官ニ任スルコトヲ得

第十二條 裁判官ハ刑事裁判又ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其意ニ反シテ退官及懲罰ヲ受クルコトナシ

第二 分課及職務

第十三條 裁判所ノ權限及裁判官ノ所掌ハ訴訟法治罪法及其他法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 治安裁判所裁判官ノ分課ハ訴訟事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ從ヒ一周年毎ニ所轄始審裁判所長ノ定ムル所ニ依ル但治安裁判所ノ便宜ニ依リ其管轄ノ區域内ニ於テ臨時分課外ノ職務ヲ行フコトアルヘシ

第十五條 治安裁判所裁判官ハ司法大臣ノ命ニ依リ其裁判所所在地外ニ於テ期日ヲ定メ法廷ヲ開クコトアルヘシ

第十六條 始審裁判所裁判官ノ分課ハ一周年毎ニ始審裁判所長ノ上申ニ依リ訴訟事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ從ヒ所轄控訴院長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 控訴院ハ民事刑事ノ類別ニ依リ須要ニ從ヒ數局ヲ置ク各局中ノ分課ハ一周年毎ニ控訴院長ノ上申ニ從ヒ事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ從ヒ大審院長ノ定ムル所ニ依ル局長及局員ヲ定限スルモ亦同シ但控訴院長ヲシテ院中二局ノ長ヲ兼テシメ自餘ノ局長ハ遞次上席ノ評定官ヲシテ之ヲ兼テシム

第十八條 第十六條第十七條ニ指定シタル分課ハ其分掌ノ偏重ナルトキ又ハ其主任ニ缺員若クハ引續キ差支アルトキニアラサレハ定期間之ヲ變更スルコトヲ得ス但前年ニ審理ヲ始メ未タ終結セサル事件ハ從來ノ主任裁判官ヲシテ終結セシムルコトヲ得

第十九條 大審院ニ民事第一局民事第二局及刑事第一局刑事第二局ヲ置ク民事第



一局ハ上告事件ノ受理不受理ヲ審判シ民事第二局ハ受理シタル事件ヲ審判シ刑事第一局ハ刑法ニ關スル上告事件ヲ審判シ刑事第二局ハ諸罰則ニ係ル上告事件ヲ審判ス

民事第二局ノ長ハ大審院長ヲシテ之ヲ兼テシメ評定官ハ司法大臣ノ上奏ニ依リ其各局分任ヲ命ス

第二十條 治安裁判所裁判官差支アルトキ其職務ヲ代理スヘキモノハ一周年毎ニ所轄始審裁判所長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其裁判所ニ於テ代理スルモノナキトキハ最近ノ治安裁判所裁判官ヲシテ代理セシム

第二十一條 始審裁判所長差支アルトキハ上席ノ判事之ヲ代理ス判事ニ差支アルトキ其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ裁判所長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其裁判所ノ判事ニ代理スルモノナキトキハ所轄治安裁判所ノ裁判官ヲシテ臨時代理セシム

第二十二條 控訴院長差支アルトキハ上席評定官之ヲ代理ス

評定官中差支アルトキ其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ院長ノ豫メ定ムル所ニ依ル若シ其院ノ評定官中代理スルモノナキトキハ所轄始審裁判所裁判官ヲシテ代理セシム

第二十三條 大審院長差支アルトキハ上席ノ局長之ヲ代理ス

局長中差支アルトキハ其局上席ノ評定官之ヲ代理ス各局評定官中其職務ヲ代理スヘキ順序ハ一周年毎ニ院長ノ豫メ定ムル所ニ依ル

第二十四條 治安裁判所判事始審裁判所長控訴院長及大審院長ハ司法大臣ノ指揮ヲ承ケ其職務ヲ整理シ及司法ニ關スル行政ヲ掌理ス

第二十五條 大審院長ハ其院及控訴院ヲ監督シ控訴院長ハ其院及所轄裁判所ヲ監督シ始審裁判所長ハ其裁判所及所轄治安裁判所ヲ監督ス

第二十六條 控訴院及大審院ノ局長ハ其局ノ所掌ニ屬スル裁判事務ヲ指揮ス

第二十七條 治安裁判所ヲ除クノ外裁判所ニ檢事局ヲ置キ檢察官ヲシテ治罪法及訴訟法ニ定ムル職務ノ外司法ニ關スル事項及司法ノ行政ニ關スル事項ニ付監督



ノ職務ヲ行ハシム其處務ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル  
治安裁判所ニ於テハ別ニ檢事局ヲ置カス檢事試補ヲシテ其所轄ニ屬スル檢察事  
務ヲ掌ラシム但檢事試補ヲ置カサルノ治安裁判所ニ於テハ警察官郡區長戸長ヲ  
シテ檢察事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十八條 各檢事局ノ管轄ハ其所在裁判所ノ管轄區域ニ依ル

第二十九條 檢察官ハ其職務上其所在裁判所ニ從屬セサルモノトス

第三十條 檢察官ニハ裁判官ノ職務ヲ行ハシムヘカラス又其職務ヲ監督セシムヘ  
カラス

第三十一條 檢察官差支アリテ止ムヲ得サル場合ニ於テハ裁判所長ハ司法大臣ノ  
認可ヲ承ケテ裁判官中ヨリ臨時代理ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條 大審院檢事長ハ所屬檢事及控訴院檢事長ヲ監督シ控訴院檢事長ハ所  
屬檢事及所轄内ノ檢事及司法警察官ヲ監督ス

第三十三條 檢察官ハ職務上其所屬長官ノ命令ニ服従スヘシ司法警察官ノ檢事ノ

補助官トナリタルトキモ亦同シ

第三十四條 始審裁判所檢事局ニハ檢事長ヲ置カス上席檢事ヲ以テ之ニ充テ始審  
裁判所及其所轄内ニ在ル治安裁判所ノ檢察事務ヲ指揮シ其局所掌ノ事務ヲ掌理  
セシム

第三十五條 控訴院檢事長ハ其局所轄ノ事務ヲ掌理シ其局及其所轄ノ檢察官ヲ指  
揮ス

第三十六條 大審院檢事長ハ其局ノ檢事ヲ指揮シ及其局所轄ノ事務ヲ掌理ス

第三十七條 控訴院及大審院ノ書記官ハ書記ヲ指揮監督シテ文書記録會計ノ事務  
ヲ掌ル

第三十八條 裁判所ノ書記ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ訴訟法治罪法及其他法律命令  
ノ定ムル所ニ依リ文書記録會計ニ從事ス

始審裁判所以上ノ裁判所ニ於テハ檢事局ニ書記ヲ置ク其職務ハ前項ニ同シ

第三十九條 執行吏ハ治罪法訴訟法及其他法律命令ノ定ムル所ニ依リ文書ノ送達



及判決命令ノ執行ヲ掌ル

第三 執務及休暇

第四十條 治安裁判所及始審裁判所ノ審理判決ハ裁判官一人ニテ之ヲ行ヒ控訴院ノ審理判決ハ主任局長ヲ合セテ裁判官二人大審院ノ審理判決ハ主任局長ヲ合セテ五人合議列席シテ之ヲ行フ

第四十一條 裁判ヲ爲スニハ前條ニ指定シタル主任裁判官ノ外列席スルコトヲ得ス但審問數日ニ渉ルヘキトキハ其裁判所中自餘ノ裁判官ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

第四十二條 裁判所ノ會議及議決ハ之ヲ公行セス其狀況及結果ハ一切之ヲ漏洩スルコトヲ許サス

第四十三條 合議列席シテ審理判決ヲ行フ場合ニ於テハ主任局長其會議ノ長トナリテ議事ヲ整理シ訴件ノ要點ニ就テ問議ヲ提出シ列席員ヲシテ各意見ヲ述ヘシム其問議ノ事項及提出ノ方法順序又ハ決議ノ査定ニ關シ各員ノ間ニ異見ヲ生ス

ルトキハ列席員ノ最多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第四十四條 決議ノ際各員異見ヲ述フルノ順序ハ各其任官ノ前後ニ依リ後任ノ裁判官ヨリ始メ局長ヲ最後トス任官ノ同日ニ係ルトキハ年少ヨリ始ム但專任ヲ命シタル事件ニ關シテハ其專任裁判官ヨリ之ヲ始ム

第四十五條 凡ソ裁判ハ過半数ノ議決ニ依リ之ヲ行フ  
金額ニ關シ裁判官ノ意見三説以上ニ分レ其説各過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ノ意見ニ合算ス

刑事ニ關シ有罪無罪ノ問議ヲ除クノ外其意見三説以上ニ分レ各過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第四十六條 大審院ニ於テ裁判前例ニ違ヘル裁判ヲ爲サントスルトキ又ハ司法大臣ノ諮問ニ應シ司法制度ニ關スル意見ヲ提出セントスルトキハ總會議ヲ開クコトヲ得

サ



總會議ハ院中ノ裁判官三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ開キ院長其會議ノ長トナリテ其議事ヲ整理シ其議決ハ最多數ニ依ル若シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十七條 治安裁判所及始審裁判所ハ裁判上ノ處分ニ關シ互ニ補助ノ囑托ニ應スヘキモノトス

第四十八條 檢察官其職務ヲ行フニ付必要ナル場合ニ於テハ互ニ補助ノ囑托ニ應スヘキモノトス

第四十九條 書記又ハ執行吏他ノ裁判所ノ管轄内ニ於テ其職務上ノ處分ヲ爲スノ必要ナル場合ニ於テハ互ニ補助ノ囑托ニ應スヘキモノトス

第五十條 裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ル

第五十一條 休暇中ハ左ノ事件ニ限り裁判ス

一、刑事

二、差押事件

三、身代限ニ關スル事件

四、家宅ノ貸渡使用明渡及借家人ノ借宅ニ現存スル物品引留ニ付家主ト借家人トノ間ニ生スル事件

五、爲換事件

六、養料ノ請求

七、既ニ著手シタル建築ノ繼續ニ關スル事件

以上事件ノ外ト雖モ原告若クハ被告ノ申立ニ由リ別段ノ至急ヲ要スルモノト裁判所ニ於テ認定シタルトキハ之ヲ裁判スルコトアルヘシ

前諸項ノ事件ヲ裁判スル爲ニ裁判所長ハ休暇中臨時主任ノ局又ハ委員ヲ定ムヘシ

○裁判官檢察官大審院控訴院書記官年俸

○明治十九年五月五日勅令第四拾壹號

サ



朕茲ニ裁判官檢察官大審院控訴院書記官ノ年俸ヲ裁可ス

御名 御璽

裁判官檢察官大審院控訴院書記官年俸

第一條 裁判官檢察官大審院控訴院書記官ノ年俸ハ別表定ムル所ニ依ラシム

第二條 現任裁判官及檢察官ノ年俸ハ舊ニ依リ支給ス新ニ裁判官檢察官大審院又

ハ控訴院ノ書記官ニ任セラル、モノ又ハ現任ノ裁判官檢察官ノ今後官等ヲ陞叙セラル、モノハ別表定ムル所ニ依リ其年俸ヲ支給ス

別表

官等	勅任		奏任						
	一	二	一	二	三	四	五	六	
年俸五千五百圓	上五千圓	上四千圓	貳千八百圓	貳千貳百圓	千六百圓	千四百圓	千八百圓	千七百圓	千四百圓
	下四千五百圓	中三千五百圓	貳千六百圓	貳千圓	千四百圓	千圓	九百圓	六百圓	三百圓

○札幌農學校官制

○明治十九年十二月廿八日勅令第八拾四號

朕札幌農學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

札幌農學校官制

第一條 札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農工ニ關スル學術技藝ヲ教授スル所トス

第二條 札幌農學校ノ各専門學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條 札幌農學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ  
校長

サ



幹事  
教授  
助教  
訓導  
舎監  
書記

第四條 校長ハ一人奏任トス北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ總轄シ幹事以下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條 教授二人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第七條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第八條 訓導ハ判任トス農工ノ實業ヲ授クルコトヲ掌ル

第九條 舎監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ命ヲ承ケ生徒及校舎ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス



○幾ノ部

○舊銅貨ノ品位ヲ定ム

○明治十九年十一月十六日勅令第七拾號

朕舊銅貨天保通寶通用禁止延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十七年<sup>十月</sup>第貳拾六號布告舊銅貨天保通寶通用禁止期限ハ更ニ明治二十四年十二月三十一日迄延期ス

○技術官官等俸給令

○明治十九年四月二十日勅令第三拾八號

キ



朕茲ニ技術官官等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

技術官官等俸給令

第一條 各廳ニ於テ工藝技術ヲ要スルモノハ職員ノ外特ニ技術官ヲ置ク

第二條 技術官ヲ分テ技監技師技手トス

第三條 技監ハ勅任トシ技師ハ奏任トシ一等技師ヨリ六等技師ニ至リ技手ハ判任トシ一等技手ヨリ十等技手ニ至ル

第四條 技監技師ノ叙任奏薦辭令書同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依ル

第五條 技手ノ月俸ハ別表定ムル所ニ從ヒ各廳俸給定額内ニ於テ事業ノ繁簡ニ應シ便宜増減支給ス

第六條 技手ハ各廳ノ便宜ニ從ヒ別表技手俸給範圍内ニ於テ日給トナスコトヲ得

第七條 技手ノ昇等毎等ノ定員特別増俸及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三拾六號判

任官官等俸給令ニ依ル

第八條 技手ノ人員ハ事業ノ繁簡ニ從ヒ本屬大臣ノ定ムル所ニ依ル但定員ノ外俸給定額内ニ於テ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

第九條 日給ノ技手疾病ニ罹リ缺勤三十日以内ニシテ其證據明白ナルトキハ日給ノ半額ヲ給スルコトアルヘシ但公務ニ依リ傷瀆シ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ本條ノ限ニアラス

第十條 日給技手ヲ定時間外ニ服業セシムルトキハ俸給定額内ニ於テ便宜加給スルコトヲ得

第十一條 日給技手ヲ除クノ外總テ技術官ハ其主務ノ便宜ニ依リ其年俸又ハ月俸ノ半額ヲ給シ之ニ休職ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 技術官ニシテ休職ヲ命セラレ普通文官ノ事務ヲ兼ヌルモノハ兼官ニ就テ其年俸又ハ月俸ヲ給ス但此ノ場合ニ於テハ別ニ休職俸ヲ給セス



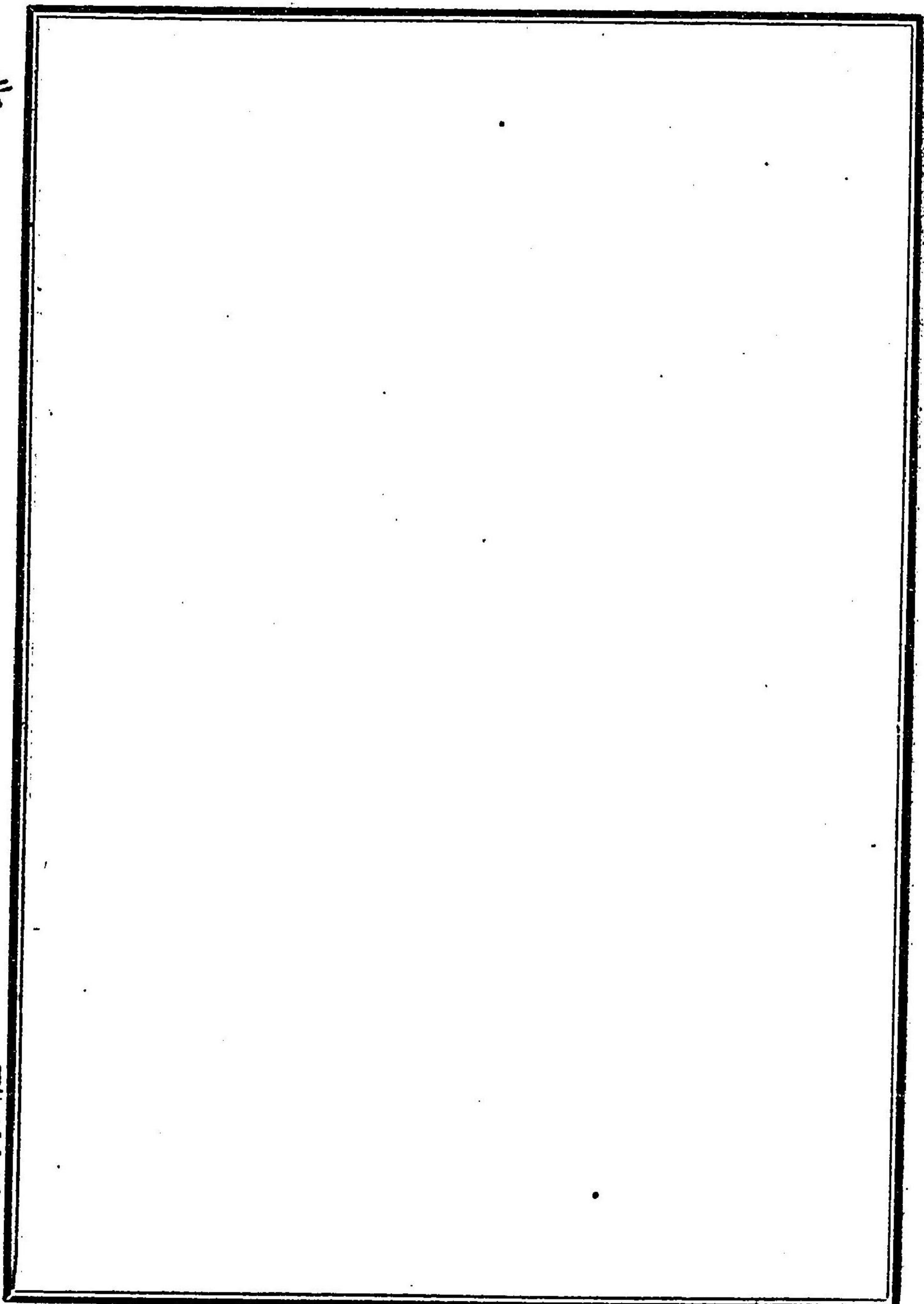
別表

判

任

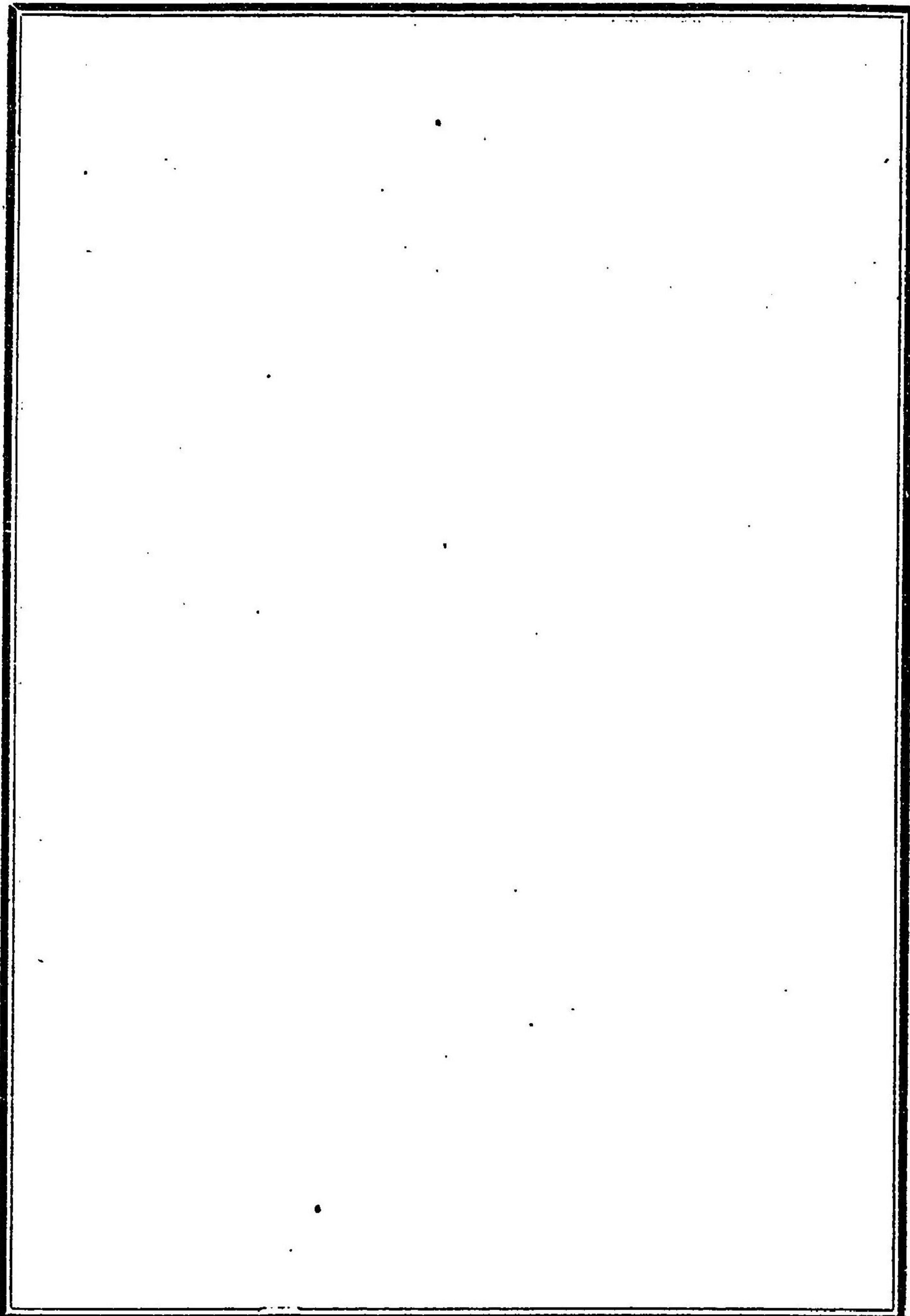
官

下	中	上	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
六拾圓	七拾圓	八拾圓	等技手	等技手	等技手	等技手	等技手	等技手	等技手	等技手	等技手	等技手
五拾圓	六拾圓	七拾圓										
四拾五圓	五拾圓	五拾五圓										
四拾圓	四拾五圓	五拾圓										
三拾五圓	四拾圓	四拾五圓										
三拾圓	三拾五圓	四拾圓										
貳拾五圓	三拾圓	三拾五圓										
貳拾圓	貳拾五圓	三拾圓										
拾五圓	貳拾圓	貳拾五圓										
拾圓	拾五圓	拾圓										
貳圓	拾圓	拾五圓										

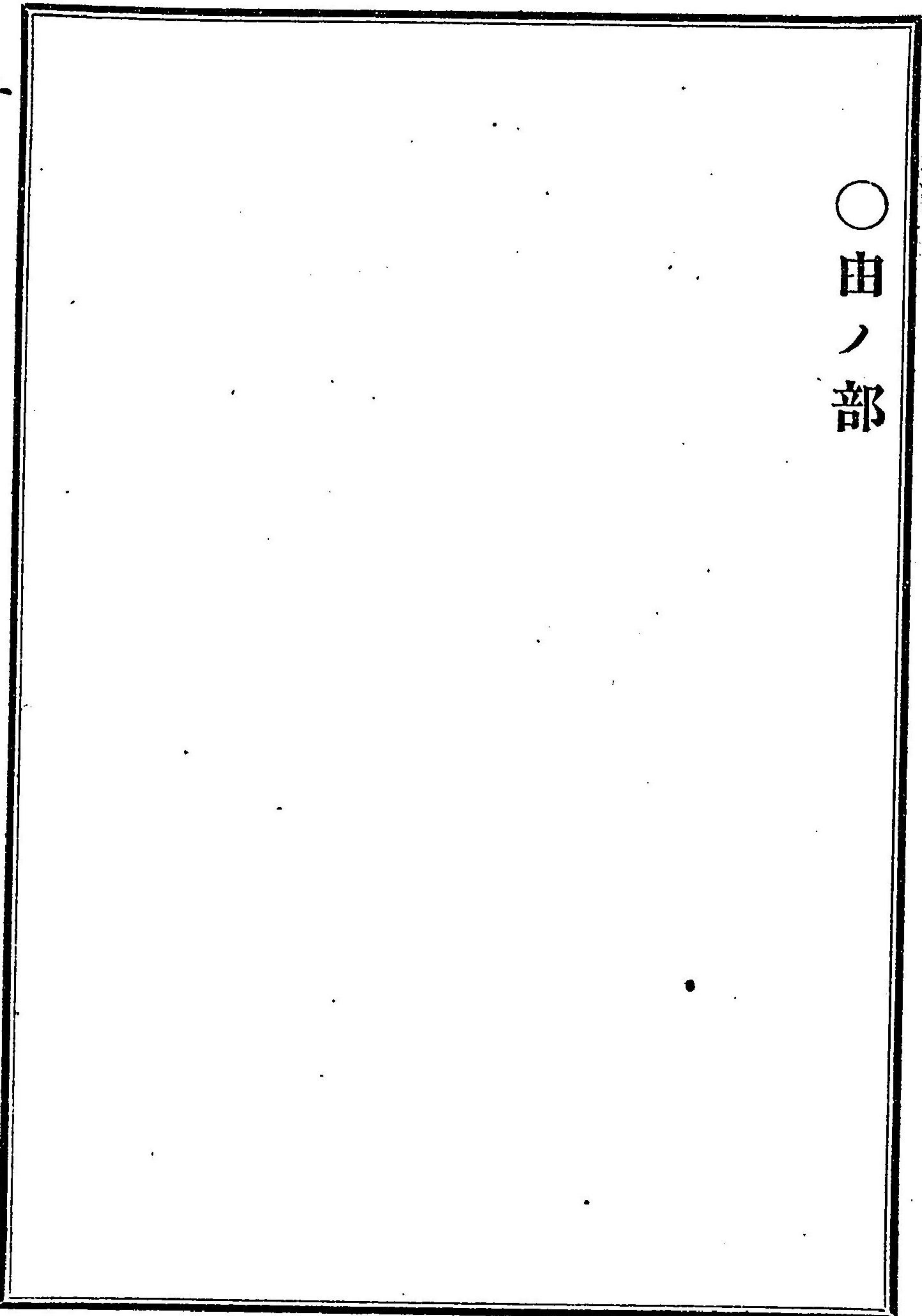


六

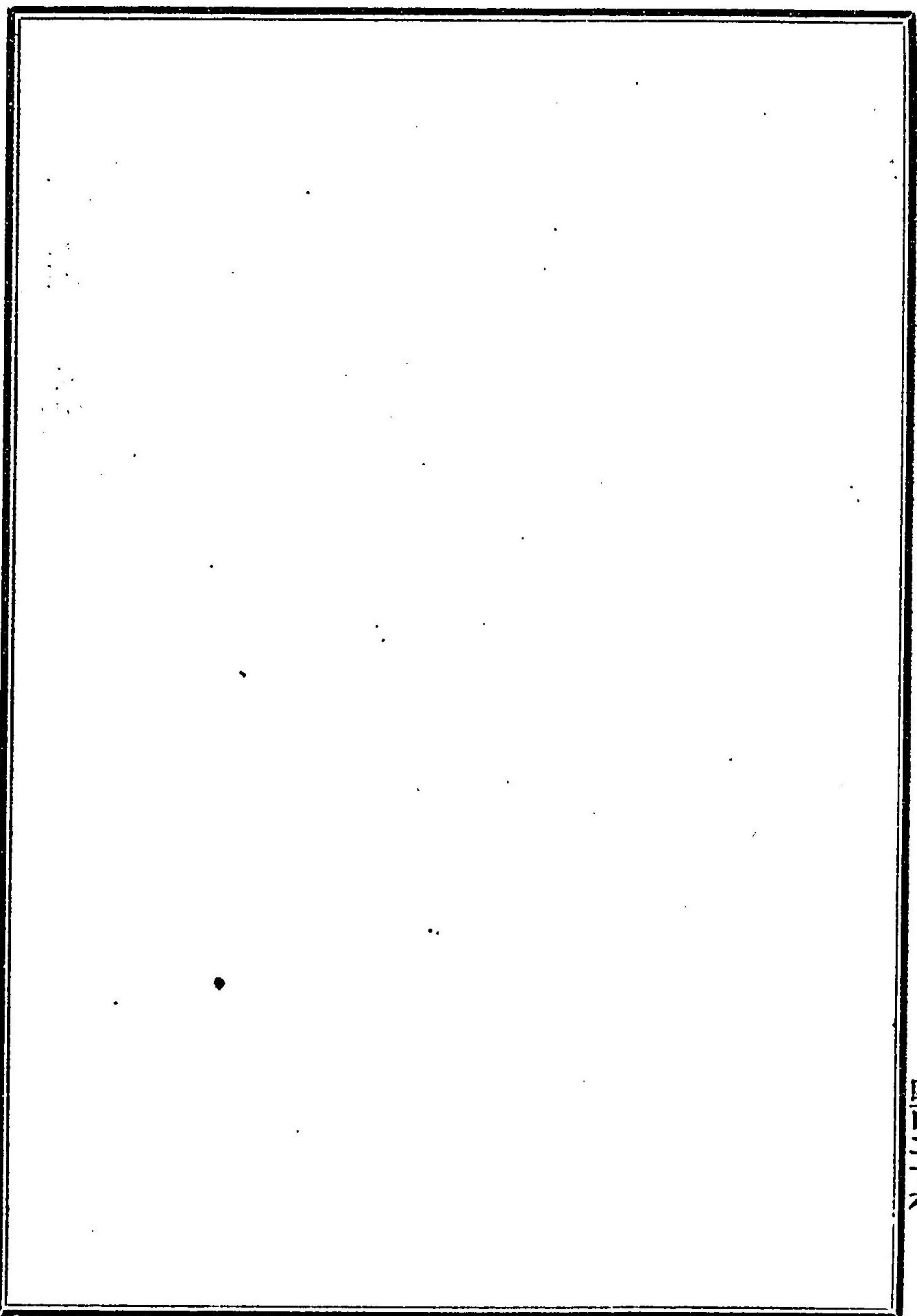




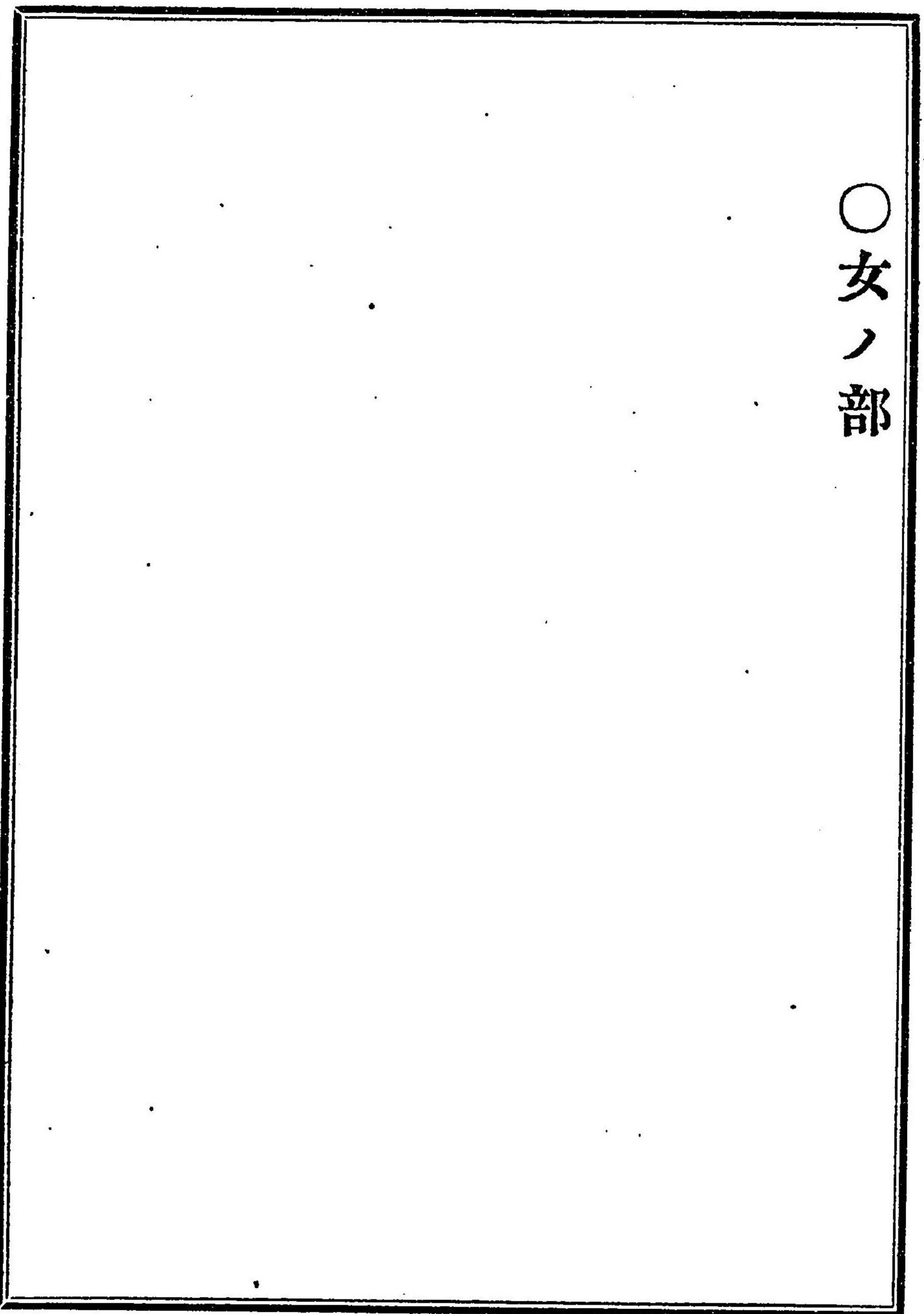
○由ノ部





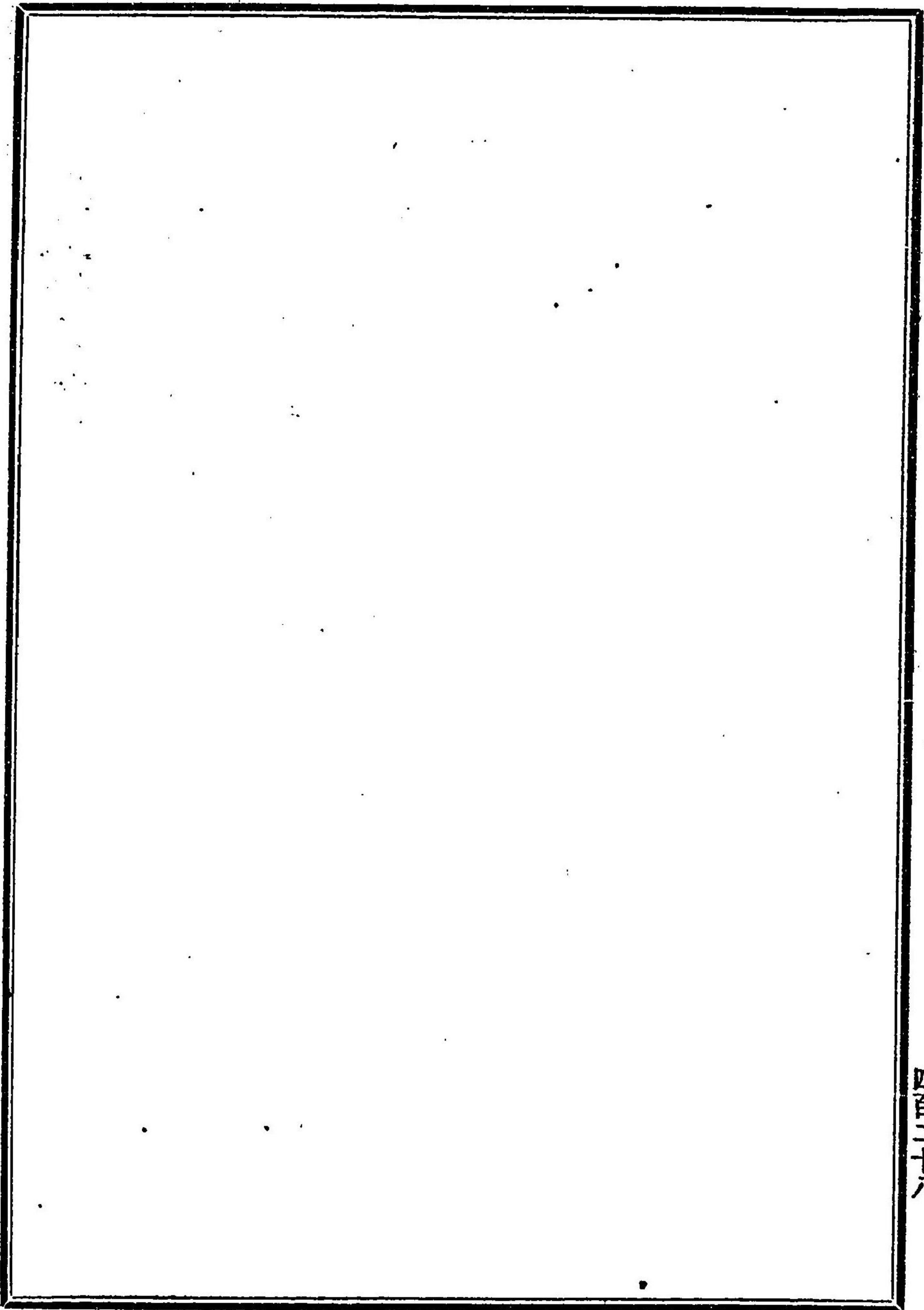


○女ノ部

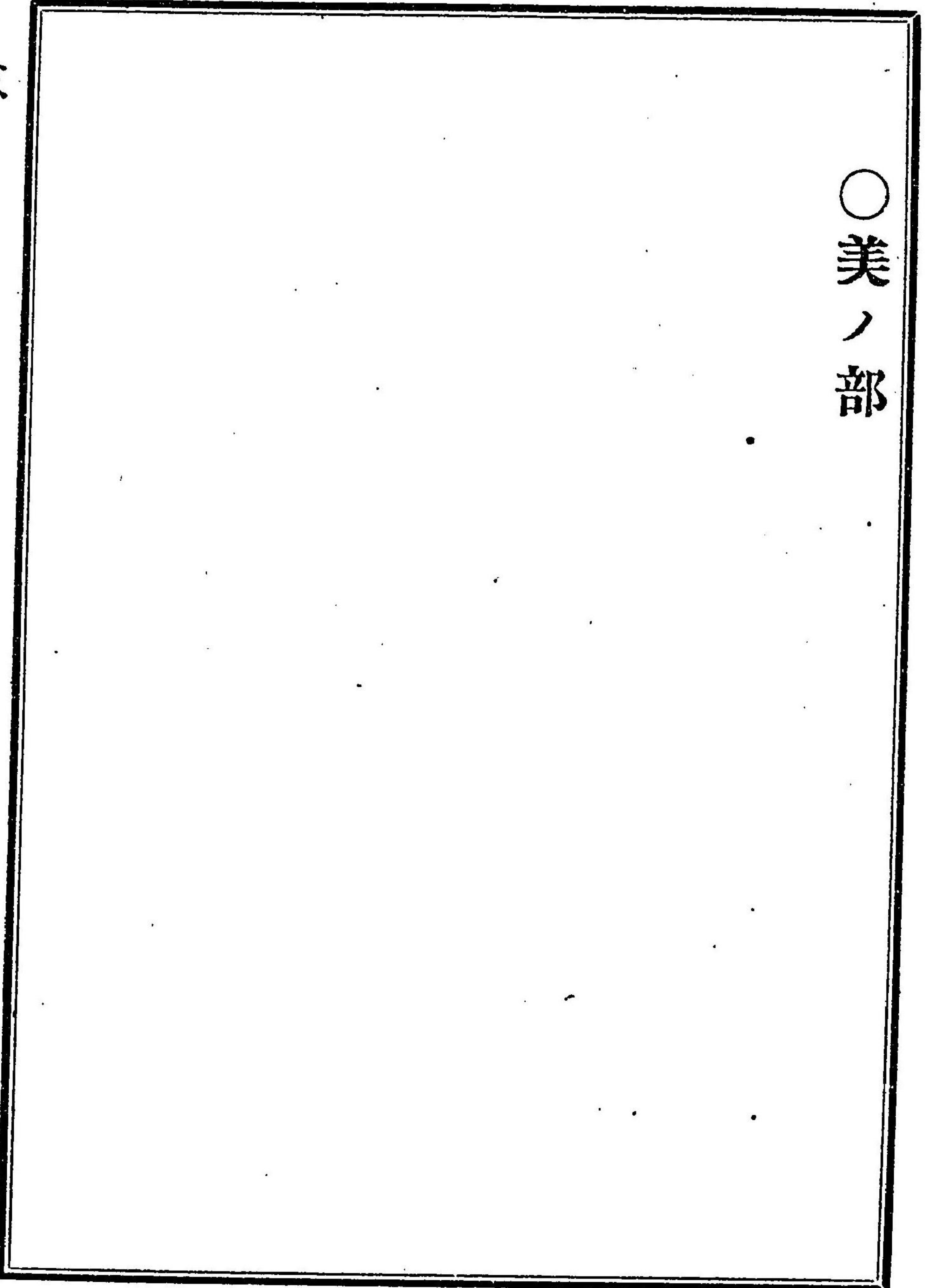


又





○美ノ部



三



# ○之ノ部

○新紙幣 百圓五拾圓二拾圓拾圓五圓五拾錢二拾錢拾錢五錢ノ十一種發行

○明治四年十二月廿七日布告

維新已來太政官并ニ民部省發行ノ金札製造ノ粗ナルヨリ價造ヲ謀ル者間々有之且又從來舊藩々ニ於テ發行ノ金銀錢札ハ其管轄限り通用ノ儀ニ付一般流通ノ便ヲ失ヒ其弊害不少依之今般御多端ノ折柄莫大ノ入費ヲ不被爲厭精工ノ新紙幣百圓五拾圓二拾圓拾圓五圓二圓壹圓五拾錢二拾錢拾錢五錢ノ各種ヲ製造シ來壬申年二月十五日ヨリ右各種ノ内差向壹圓五拾錢二拾錢拾錢ノ四種ヲ發行セシメ追々製造成功ノ都合ニヨリ從來官藩兩様ノ金札ト引換候條厚キ御趣意ヲ體認シ無疑念通用可致尤モ一般引換ノ都合ハ猶追テ相達候儀モ可有之依テ各種ノ新紙幣相添此段相達候事

別紙布告文ノ通愈來二月十五日ヨリ今般新製ノ紙幣發行致シ候ニ付テハ僻地小民



共ハ前以テ趣意了知セシメ篤ト心得居候様不致テハ或ハ新奇ノ思ヲナシ厭忌ノ情  
ヲ生シ候モ難計發行ノ際ニ臨ミ右躰ノ事有之候テハ難相成候條各地方廳ニナイテ  
厚ク注意致シ末々ニ至ル迄解シ易キ様更ニ布告文へ假名ヲ加ヘ管下ノ人民へ遺漏  
ナク布達行届候様可取計尤モ各府縣へ各種紙幣拾五枚ヅ、相廻シ其内壹枚へハ各  
種印章及ヒ書込文字等ノ場所へ張紙ヲ以テ記入致シ候間各地方廳ニナイテ同様取  
計都合ノ地又ハ人民輻湊ノ場所へモ各布告文同様揭示イタシ置キ廣ク人民へ相示  
シ候様可致此段更ニ相達候事

○明治十三年二月五日第五號布告

現今流通ノ紙幣ハ紙質脆弱破裂等ノ憂不少候ニ付此度拾圓五圓壹圓三種ノ紙  
幣ヲ改造シ漸次交換候條此旨布告候事

但差向壹圓紙幣製造出來ニ付右見本札各管轄廳へ下ケ渡置候事

○明治十五年八月十八日第四拾五號布告

半圓二十錢ノ損傷紙幣交換ノ爲メ五拾錢貳拾錢ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候條  
當分ノ内在來ノ紙幣ト取交通用スヘシ

但本文紙幣見本ハ大藏省ヨリ各府縣へ下ケ渡スヘシ

○明治十九年七月十日勅令第五拾號

朕拾錢紙幣通用禁止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

拾錢紙幣來ル明治二十年六月三十日限通用ヲ禁止ス

○酒造稅則



○明治十九年八月二日勅令第六拾號

朕酒造稅則附則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十五年<sup>十二月</sup> 第六拾壹號布告酒造稅則附則左ノ如ク改正シ明治十九年十月一日ヨリ施行ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ酒類<sup>飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ</sup>及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ<sup>ヲ製造セント欲スル者ハ</sup>

其旨管廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一 酒類受<sup>卸</sup>賣營業者

一 飲食店又ハ旅籠屋營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石<sup>二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス</sup>ヲ超ユルヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第



十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セザル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○明治十九年十二月十七日勅令第七拾九號

朕酒造稅則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十三年<sup>九月</sup>第四拾號布告酒造稅則第九條中「九月三十日限」トアルヲ「十月三十一日限」ト改ム

○師範學校令

○明治十九年四月十日勅令第拾三號

朕師範學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

師範學校令

第一條 師範學校ハ教員トナルヘキモノヲ養成スル所トス

但生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス

第二條 師範學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ

關ス

第三條 高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ

シ

第四條 高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨ス

ヘシ

第五條 尋常師範學校ノ經費ニ要スル地方稅ノ額ハ府知事縣令其豫算ヲ調整シ文

部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

シ



第六條 師範學校長及教員ノ任期ハ五箇年トス滿期ノ後猶ホ繼續スルコトアルヘシ

第七條 尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼ヌルコトヲ得

第八條 師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條 師範學校生徒ノ學資ハ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

第十條 高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十一條 尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十二條 師範學校ノ學科及其程度并教科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○諸學校通則

○明治十九年四月十日勅令第拾六號

朕諸學校通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

諸學校通則

第一條 師範學校ヲ除クノ外各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設置維持スルニ足ルヘキ金額ヲ寄附シ其管理ヲ文部大臣又ハ府知事縣令ニ願出ルモノアルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣立ト同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得但寄附人ノ望ニ依リ其名稱ヲ附スルコトヲ得

第二條 寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第三條 學校幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ヘク其區町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク廢止ハ府知事縣令ニ上申スヘシ

シ



第四條 凡教員ハ文部大臣若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ  
第五條 公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシ

○商船學校電信修技學校官制

○明治十九年四月十七日勅令第拾九號

朕商船學校電信修技學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

商船學校官制

第一條 商船學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海運用機關ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 商船學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長

幹事

教授

助教

書記

第三條 校長ハ一人奏任二等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ及  
幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第四條 幹事ハ一人奏任三等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故ア  
ルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ三人奏任三等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第七條 書記ハ判任トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○電信修技學校官制

第一條 電信修技學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ電機通信ノ技術ヲ教授スル所トス